Panasonic

持込修理

パナソニック音響製品保証書

本書はお買い上げの日から下記期間中故障が発生した場合には本書裏面記載内容で無料修理を行なうことをお約束するものです。詳細は裏面をご参照ください。

品　番	SJ-MR250
保証期間	お買い上げ日から **本体１年間**
※お買い上げ日	年　月　日
※お客様	ご住所 お名前　　　　　様 電　話（　　）　－
※販売店	住所・氏名 電話（　　）　－

松下電器産業株式会社
AVCネットワーク事業グループ

〒571-8505　大阪府門真市松生町１番４号　TEL (06) 6909-1021

ご販売店さまへ　※印欄は必ず記入してお渡しください。

Panasonic

ポータブルMDレコーダー
Portable MD Recorder

取扱説明書
Operating Instructions

品番　**SJ-MR250**

お買い上げいただき、まことにありがとうございました。
ご使用に際して、必ず本機（SJ-MR250）とBeatJamのユーザー登録をお願いいたします。（詳しくは56ページをご覧ください。）

■この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。
■保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

NetMD

PRINTED WITH SOYINK™

この取扱説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

保証書付き　上手に使って上手に節電

この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です。）

販売店名	i（　）　－	お買い上げ日	年　月　日
お客様ご相談窓口	i（　）　－	品　番	SJ-MR250

松下電器産業株式会社　AVCネットワーク事業グループ
〒571-8505　大阪府門真市松生町１番４号
Matsushita Electric Industrial Co., Ltd. AVC Network Business Group
1-4 Matsuo-cho, Kadoma City, Osaka, Japan 571-8505

RQT6558-1S
F0602KK1062

もくじ

準備しよう

録音してみよう

再生してみよう

編集してみよう

Net MD で使う

ご参考に

安全上のご注意 （必ずお守りください）

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

	危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
	警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
	注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は、絵表示の一例です。）

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

マルチクレードルについて

注意

内部に異物を入れたり、使用中にふとんや布でおおったりしない

- 故障の原因や、熱がこもって火災や感電の原因になることがあります。

付属以外のスピーカーを接続したり、接続端子に触れたりしない

- ショートや発熱により、火災や感電の原因になることがあります。

本機について

警告

分解・改造しない

分解禁止

- 機器が故障したり、金属物が入ると、やけどや火災の原因になります。
- 点検や修理は、販売店へご依頼ください。

自動車やバイク、自転車などの運転中は使用しない

- 周囲の音が聞こえにくく、交通事故の原因 になります。
- 歩行中（特に、踏切や横断歩道）でも周囲の交通に十分注意してください。

注意

異常に温度が高くなるところに置かない

- 機器表面や部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。
- 夏の閉め切った自動車内や、直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

ステレオインサイドホン使用時は音量を上げすぎない

- 耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 車外の音が聞こえないような音量で聞きながら運転すると、交通事故の原因になることがあります。

ステレオインサイドホンなど肌に直接触れる部分に異常を感じたら使用を中止する

- そのまま使用すると炎症やかぶれなどの原因になることがあります。

AC アダプターについて

⚠ 危険

ふとんや布でおおった状態で使用しない

- 熱がこもって、ケースが変形したり、火災や感電の原因になることがあります。

⚠ 警告

プラグは根元まで確実に差し込む

- 差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。
- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

ぬれた手で、AC アダプターの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

- ぬれた手でマルチクレードルやコンセントから AC アダプターの抜き差しをすると、感電の原因になります。

コード・プラグを破損するようなことはしない

傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない。

- 傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。
- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流 100 V 以外での使用はしない

- たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

AC アダプターについて（つづき）

⚠ 警告

プラグのほこり等は定期的にとる

- プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり火災の原因になります。AC アダプターを抜き、乾いた布でふいてください。
- 長期間使用しないときは、AC アダプターを抜いてください。

⚠ 注意

抜き差しは AC アダプター本体を持つ

- コードを引っ張ると、コードが傷ついたり、ちぎれたりし、火災や感電の原因になることがあります。

付属の AC アダプターを使う

- 指定外の電圧や電源で使用すると、火災や感電の原因になることがあります。

充電式電池について

⚠ 危険

専用のマルチクレードルと AC アダプターを使って充電する

- 指定外の機器で充電すると、電池の液もれや、発熱、破裂の原因になります。
- 充電式電池も必ず指定のものをご使用ください。

はんだ付け、分解、改造したり、火の中へ投入、加熱はしない

- 電池の液もれや、発熱、破裂の原因になります。

充電式電池について（つづき）

 警告

⊕と⊖をショートさせない

- 電池の液もれや、発熱、破裂の原因になります。
- ネックレスなどの金属物といっしょに携帯、保管する場合は、必ず付属の充電式電池ケースに入れてください。
- 電池には安全のためにビニールのチューブをかぶせています。これをはがすとショートの原因になりますので、絶対にはがさないでください。はがれたものは使わないでください。

乾電池について

⚠ 注意

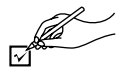
電池は正しく取り扱う

- **⊕と⊖は正しく入れる**
- **長期間使用しないときは、取り出しておく**

電池は誤った使い方をしない

- **充電しない**
- **加熱、分解したり、水、火の中へ入れたりしない**
- **ネックレスなどの金属物といっしょにしない**
  （乾電池入りの乾電池ケースも同様です。）
- **被覆のはがれた電池は使わない**

- 取り扱いを誤ると、電池の液もれにより、火災や周囲汚損の原因になります。
- 万一液もれが起こったら、販売店にご相談ください。
- 液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

付属品の確認

お使いになる前に、まず付属品を確かめてください。

□ **ステレオインサイドホン**
（L0BAB0000162）

□ **ACアダプター**
（RFEA413J-2S）

□ **ジョイント式リモコン**
（N2QCBD000024）

□ **マルチクレードル**
（RFE0102）

□ **ニッケル水素充電式電池**
充電式電池ケース(RFA0475-Q)から取り出してご使用ください。

□ **スピーカー**
（RFA2069）

□ **乾電池ケース**
（RFA1537-S2）

□ **USBケーブル**
（K2KZ4CB00003）

□ **キャリングケース**
（RFC0069-H）

□ **Net MD用ソフトウェア**
- **CD-ROM**
- **ユーザー登録ハガキ**
- **BeatJam 取扱説明書**

■付属品の買い替えについて
サービスルートでお買い求めいただけます。上記かっこ内の品番でお買い上げの販売店にご注文ください。（ニッケル水素充電式電池は別売り品HHF-1PSC/1BまたはHHF-AZ01S/1Bをお買い求めください。）

■別売り品でお買い求めいただけるもの
「別売り品の紹介」（➠ 65ページ）をご参照ください。

各部のなまえ

⓱ などの数字は、参照ページです。

本体

後面

⑯ マルチクレードル接続端子 ⓭

⑰ 乾電池ケース取り付け穴 ⓯

① 表示パネル

② OPEN（ふた開）つまみ ⓱

③ EQ / REC SENS（音質切換, 録音感度切換）ボタン ㉞ ㉗

④ MODE（録音／再生モード切換, カナ／漢字切換）ボタン ㉒ ㊱ ㊴

⑤ MARK MODE（トラックマークモード切換, トラックマーク付与）ボタン ㉖

⑥ VOL ,−, ＋（音量調節）ボタン ㉘

⑦ MIC(PLUG IN POWER)（マイク）端子 ㉕

⑧ OPT/LINE IN（光デジタル／ライン入力）端子 ⓴

⑨ ヘッドホン端子（🎧）㉘

⑩ HOLD →（本体用ホールド）つまみ ⓰

⑪ ►/ ❚❚（録音, 再生, 一時停止, 電源入）ボタン ⓴ ㉘

⑫ ⏮ ,⏭（録音レベル調整, とび越し, 早送り/早戻し）ボタン ㉗ ㉛

⑬ ■/OPR OFF（停止, 電源切）ボタン ㉑ ㉙

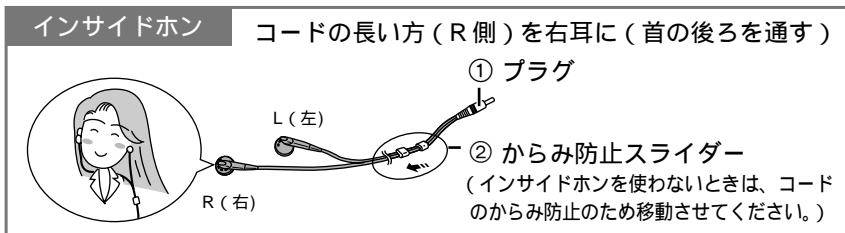
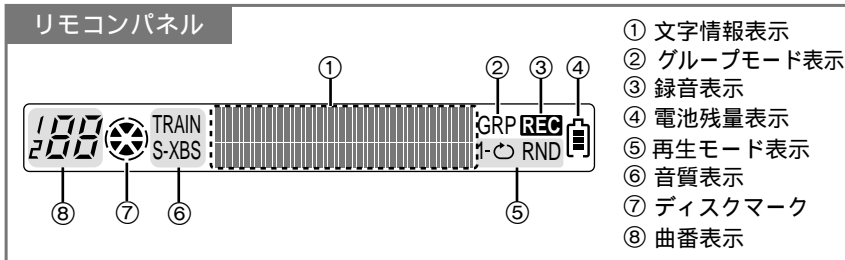
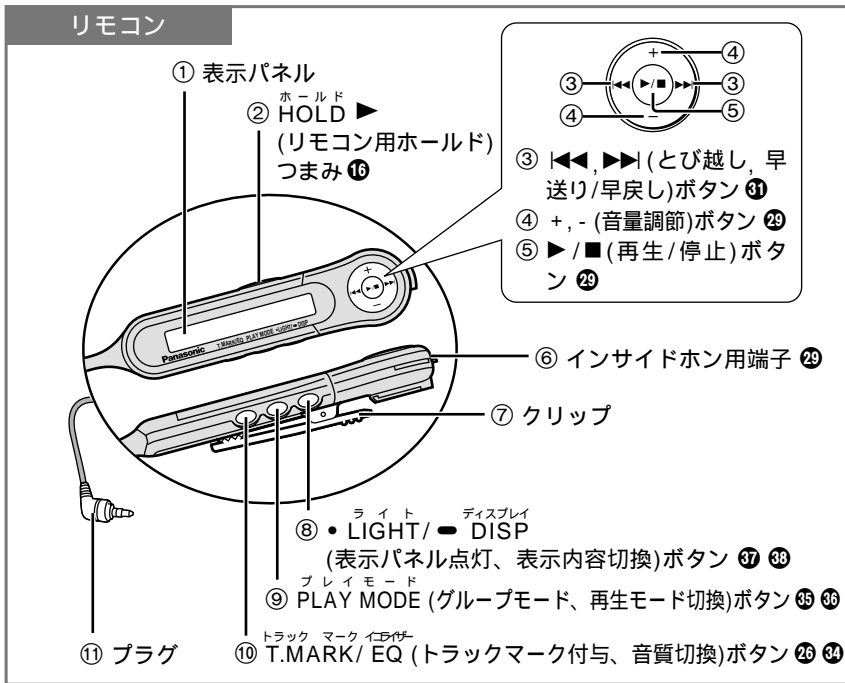
⑭ REC/LP MODE →（録音待機／電源入、長時間録音モード切換）つまみ ⓴

⑮ ◄ OPEN 充電式電池ふた ⓭

マルチクレードル

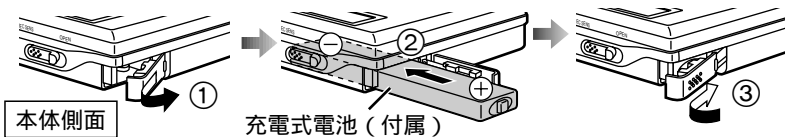
本体表示パネル

各部のなまえ（つづき）

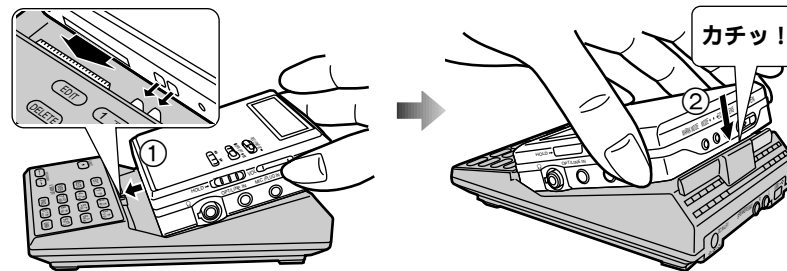
⑯ などの数字は、参照ページです。

電源の準備

充電式電池で使う

充電する

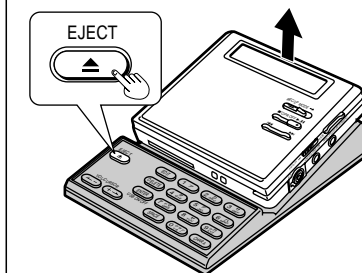
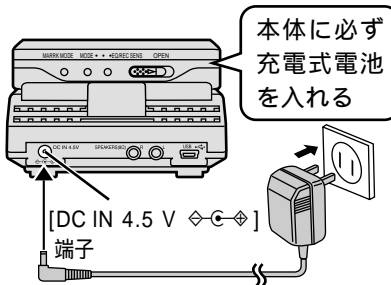
1 充電式電池を本体に入れる お買い上げ時も充電必要

2 本体をマルチクレードルに取り付ける

3 AC アダプターをマルチクレードルに接続する

充電開始！

表示（“ CHARGE ”）が消えたら充電完了（フル充電）です。付属の充電式電池では**約 3 時間 30 分**かかります。

お願い

必ず付属の AC アダプターをご使用ください。付属以外の AC アダプターをご使用になると故障の原因になることがあります。

■本体をマルチクレードルから取り外すには

充電式電池で使う（つづき）

ACアダプターを接続していても、本体に充電式電池を入れずにマルチクレードルに取り付けると［NO BATTERY］と表示され、電源が入りません。

■本体をマルチクレードルに取り付けて使うときは

録音や編集、スピーカーで聞くとき、Net MDを使用する場合など

充電式電池を入れた本体をマルチクレードルに取り付け、ACアダプターを接続する（➠ 13ページ）

充電式電池を本体に入れることにより、録音中やNet MDで曲を転送している途中に、誤って[⏏, EJECT]を押し、本体がマルチクレードルから外れても、音楽データが記録されなかったり、壊れたりすることを防ぐことができます。

■電池の持続時間

「主な仕様」(➠97ページ) をご覧ください。

■充電可能回数は

約300回です。（充電しても持続時間が極端に短い場合は、寿命です。）

■充電式電池の買い替えは

ニッケル水素充電式電池

HHF-1PSC/1B、HHF-AZ01S/1B

■長期間使用しないときは

節電のため本体の電源を切り、ACアダプターをコンセントから抜いておくことを、おすすめします。

[■/OPR OFF]を押して電源を切った状態でも、ACアダプターが約1.6 Wの電力を消費しています。

お願い

マルチクレードルに本体を取り付けてお使いになるとき、傾けたり、乱暴に置いたりして衝撃を与えないようにしてください。

お知らせ

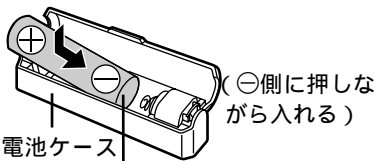
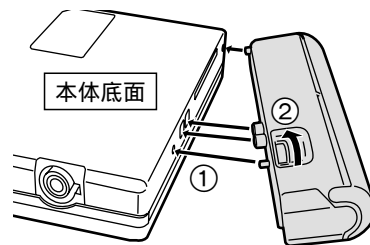
- 充電時は、必ず付属の、または左記「充電式電池の買い替えは」の別売り充電式電池をお使いください。電池残量を使い切らなくても**継ぎ足し充電が可能です。**
- 電源を切った状態でのみ、充電できます。
- Net MD使用中は充電できません。
- “ CHARGE ” 表示が出ないときは、一度ACアダプターをマルチクレードルの [DC IN 4.5 V ⊖-C-⊕] 端子から抜き、再び差し込んでください。
- 充電中、ACアダプターと充電式電池は熱を持ちますが、異常ではありません。
- 長期間使用しなかった後は、充電しても通常の持続時間より短くなることがあります。充電、放電をくり返すと、通常に戻ります。

使用後は、貴重な資源を守るためにリサイクルへ！
使用済み電池の届け先：
- お買い上げの販売店、または最寄りの松下電器の販売店・サービスセンター・販売会社へ
- もしくは、（社）電池工業会へご確認ください。
（ホームページ：http://www.baj.or.jp）

ニッケル水素電池使用

乾電池（別売り）で使う

1 乾電池を入れる

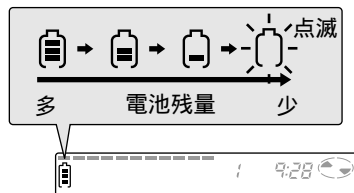
パナソニックアルカリ乾電池をおすすめします。

2 本体に取り付ける

乾電池と充電式電池を併用すると

より長時間ご使用いただけます。（電池持続時間については➠97ページ）

電池残量表示について

4段階で表示されます。

電池残量表示が点滅したら

しばらくすると電源が切れます。充電式電池は充電し、乾電池は新しいものに交換してください。

お知らせ

本体を取り付けたマルチクレードルに、ACアダプターを接続したり、本体に電池を入れたときに、動作音が聞こえることがありますが異常ではありません。

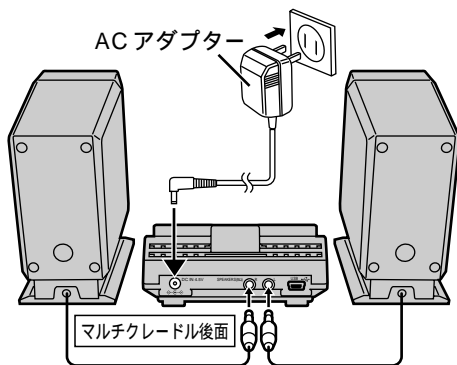
お願い

- 録音する場合は、本体に充電式電池を入れてマルチクレードルに取り付け、ACアダプターを接続してお使いになることをおすすめします。
- 乾電池を使用して録音する場合は、必ず本体に充電式電池を入れて併用してください。

スピーカーの接続

マルチクレードルとスピーカーを接続する

スピーカーにはL（左）、R（右）の区別がありません。**左側に置いたスピーカーをL端子に、右側に置いたスピーカーをR端子に**接続してください。

使いかたについては ➠ 30ページ

お願い

- **必ずACアダプターをマルチクレードルに接続して、充電式電池を入れた本体を取り付けてください。（充電式電池だけではスピーカーから音が出ません。）**
- 付属のスピーカー以外は接続しないでください。また付属のスピーカーを別の機器に接続して使わないでください。
- スピーカーに磁気の影響を受けやすいもの（キャッシュカードや定期券）を近づけないでください。

HOLD（ホールド）機能

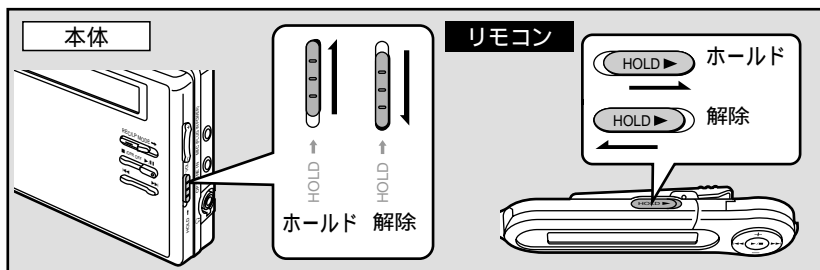
誤って操作ボタンが押されても受け付けないようにする機能です。使用していないときに電源が入ったり、使用中に再生、録音などの操作が中断することを防ぎます。

本体とリモコンにそれぞれHOLDつまみがあり、別々に機能します。

本　体

ホールド状態で操作ボタンを押すと数秒間“ **HOLD** ”と表示します。
（電源切時は、[▶/❚❚]、[REC/LP MODE →]を操作したときのみ表示。）

リモコン

動作中、つまみの位置を[HOLD]にすると数秒間“ **HOLD** ”と表示します。

MDの入れかた・出しかた

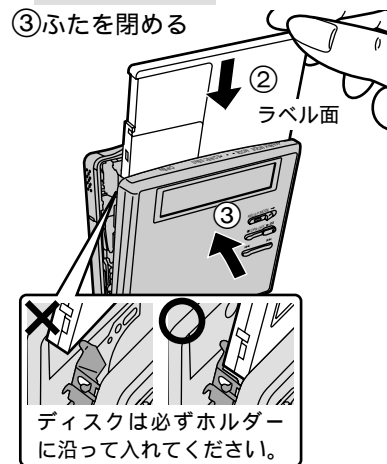
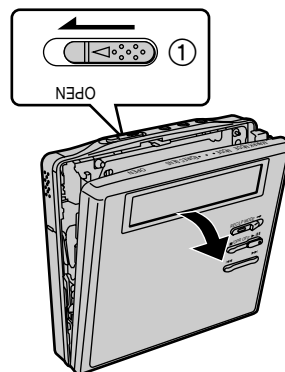
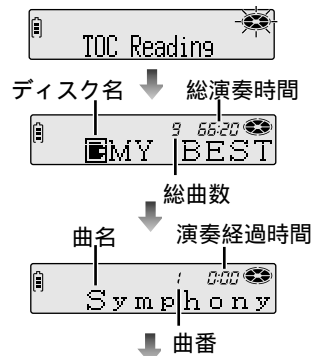
①**[OPEN]つまみを矢印の方向にスライドさせる**

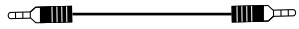
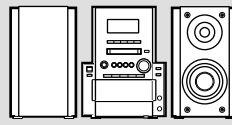
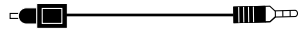
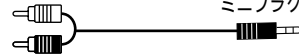
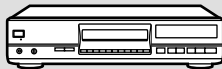
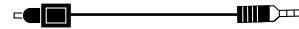
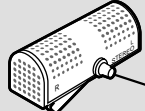
ふたが開きます。

②**ディスクのラベル面をふた側にして,中央部を押して、ロックするまで差し込む**

③**ふたを閉める**

■ディスクを取り出すには

[OPEN]つまみを矢印の方向にスライドさせる

ふたが開いてディスクが出てきます。

約1分後自動的に電源が切れます

お知らせ

何も録音されていないディスクを入れたときは、“ BLANK DISC ” と表示されます。

録音する機器と接続する

本機に接続する機器の種類によって、使用する接続コードや接続端子が異なりますので、下表でお確かめのうえ、正しく接続してください。

接続する機器と接続端子	接続コード	本機の接続端子
ポータブル CD プレーヤー 光出力（丸型）	**デジタル接続** 光ミニプラグ — 光ミニプラグ **RP-CA2210A**（別売り） ●ポータブル CD の耐振(音飛び防止)機能は“OFF”にしてください。 ●ポータブル CD の機種によってはAC アダプターを接続しないと光出力から信号が出ないものがあります。 詳しくはお手持ちのポータブル CD プレーヤーの説明書をご覧ください。	OPT/ LINE IN
ポータブル MD プレーヤー ヘッドホン／ライン出力	**アナログ接続** ステレオミニプラグ — ステレオミニプラグ **RP-CAM3G15**（別売り）	OPT/ LINE IN
ラジカセ 光出力（角型）	**デジタル接続** 光角形プラグ — 光ミニプラグ **RP-CA2110A**（別売り）	OPT/ LINE IN
ラジカセ ヘッドホン／ライン出力	**アナログ接続** ステレオミニプラグ — ステレオミニプラグ **RP-CAM3G15**（別売り）	OPT/ LINE IN

●**本機の[OPT/LINE IN]端子はデジタル・アナログの兼用です。接続コードの種類によって、自動的にデジタル入力またはアナログ入力に切り換わります。**

●**アナログ接続で録音する場合、誤って本機のヘッドホン端子[Ω]に接続しないよう特に注意してください。誤って接続すると本機が故障するおそれがあります。**

接続する機器と接続端子	接続コード	本機の接続端子
ステレオ機器 光出力（角型）	**デジタル接続** 光角型プラグ — 光ミニプラグ **RP-CA2110A**（別売り）	OPT/ LINE IN
ステレオ機器 ライン出力 (L) (R)	**アナログ接続** ピンプラグ — ステレオミニプラグ **RP-CAPM3G15**（別売り）	OPT/ LINE IN
CD プレーヤー 光出力（角型）	**デジタル接続** 光角型プラグ — 光ミニプラグ **RP-CA2110A**（別売り）	OPT/ LINE IN
ステレオマイク RP-VC200	**プラグタイプ** ステレオミニ(M3) **RP-VC200**（別売り） **RP-VC300**（別売り） 本機の[OPT/LINE IN] 端子には何も接続しないでください。	MIC(PLUG IN POWER)

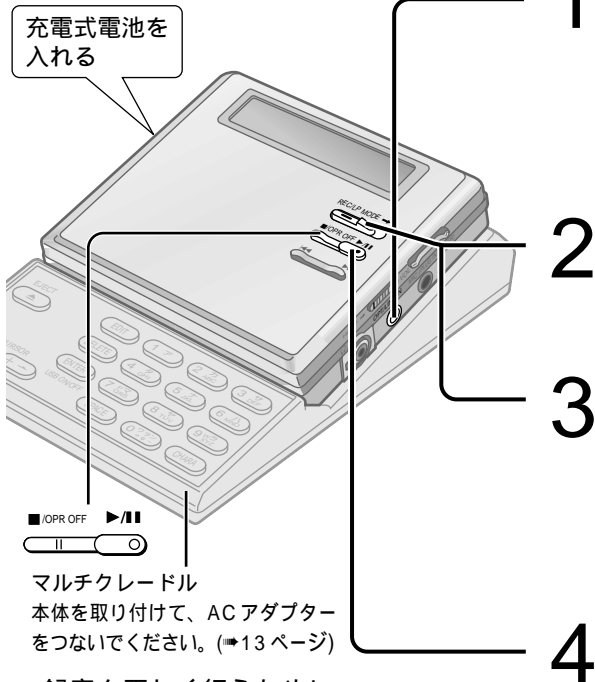
パソコンの音楽データを本機で録音する方法については、55 ～ 63 ページをご覧ください。

適切な音量で録音するには

● 接続する機器によって、本機の録音感度を調節してください。（➠ 27 ページ）
● アナログ接続で再生側の機器のヘッドホン端子に接続した場合、接続した機器の音量を適切に調節してください。

CD などを録音する

充電式電池を入れる

マルチクレードル
本体を取り付けて、AC アダプターをつないでください。(➠13 ページ)

■録音を正しく行うために

- **電源はなるべく AC アダプターをお使いください。このとき、必ず本体に充電式電池を入れてください。**
- **録音中に [⏏, EJECT]を押さないでください。**
- 録音中は振動を与えないでください。特に録音終了時の " UTOC Writing " 表示中は注意してください。正しく録音できない場合があります。
- 録音、録音待機中はふたが開きません。無理に開けようとすると、故障の原因になります。

■高音質録音について

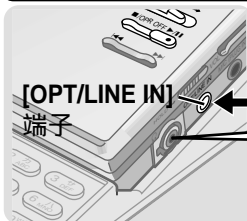
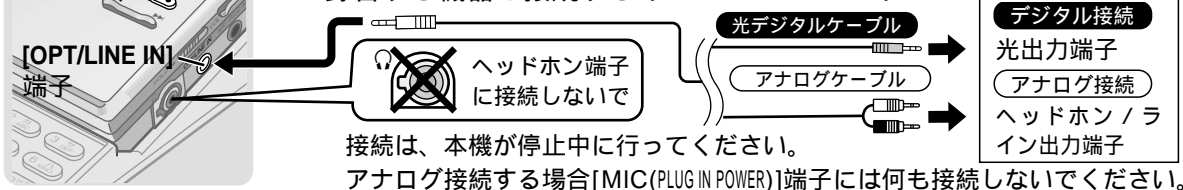
通常ステレオ録音の場合、デジタル、アナログ、マイク、いずれの入力方式でも高音質録音になります。(LP2/LP4 モードではできません。)
録音待機状態にすると本体の表示パネルに " **HDES** " (**High Density Encoding System**)と表示されます。

準備 ① **ホールド状態を解除する。**(➠16 ページ) ② **本体に充電式電池を入れる。**(➠13 ページ)
③ **録音用 MD を入れる。**(➠ 17 ページ) MD の誤消去防止つまみを閉じておく。(➠ 67 ページ)

1

録音する機器と接続する(➠ 18 ～ 19 ページ)

- 接続は、本機が停止中に行ってください。
- アナログ接続する場合[MIC(PLUG IN POWER)]端子には何も接続しないでください。

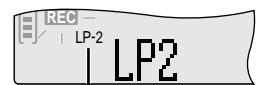
2

REC/LP MODE ➡

矢印の方向にスライドさせて
録音待機状態にする
- 接続する機器によって、録音感度を調節することができます。(➠ 27 ページ)

アナログ接続の場合 " ANALOG "
DIGITAL HDES
高音質録音(➠ 20 ページ)

3

REC/LP MODE ➡

さらに矢印の方向にスライドさせて
通常ステレオ/LP2/LP4 モードを選ぶ
スライドするたびに以下のように切り換わります。

LP2 → LP4 → 通常ステレオ(表示なし)

MDLP (LP2/LP4)モードでの録音時間
LP2 : 2 倍長時間ステレオ録音(80 分ディスクで最大 160 分録音可能)
LP4 : 4 倍長時間ステレオ録音(80 分ディスクで最大 320 分録音可能)

4

❶ **押す**
❷ **接続した機器を再生する**
録音済みの MD を入れると、前の録音部分の続きから録音されます。

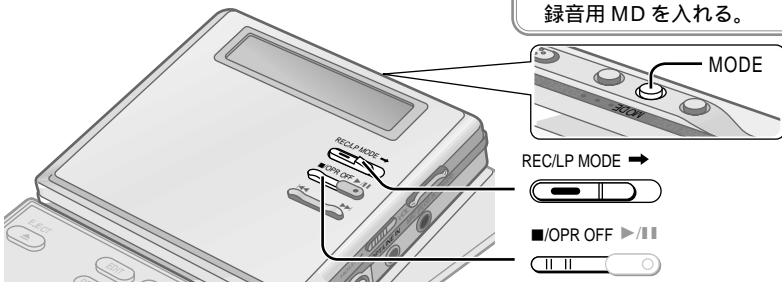
一時停止するには
録音中に ▶/❚❚ を押す 曲番が 1 つ増えます。
録音を再開するには
もう一度押す。
DIGITAL

停止するには
停止状態
録音中に ■/OPR OFF を押す
" UTOC Writing " が表示され、UTOC を記録します。(➠ 66 ページ)
1 分間停止状態のままにすると、自動的に電源が切れます。
UTOC Writing

電源を切るには
電源切状態
停止中に ■/OPR OFF を押す

CD などを録音する

CD などを録音する（つづき）

- ホールド状態を解除する。
- 本体に充電式電池を入れる。
- 録音用 MD を入れる。

シンクロ録音

■シンクロ録音

録音もとの機器の入力音を検知して、自動的に録音を開始したり、一時停止します。

■ 1 曲シンクロ録音（連続 CD1 曲目ねらい取り機能）［デジタル接続のみ］

CD の 1 曲目のみをシンクロ録音します。1 曲目の録音が終わると、録音待機状態になります。CD を交換し、再び 1 曲目を再生すると、録音が自動的に始まります。

1 **録音する機器と接続する**（➠ 18 ～ 19 ページ）

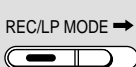
2

矢印の方向にスライドさせて

録音待機状態にする

さらにスライドすると LP2/LP4 モードが選べます（➠ 21 ページ）

3

MODE

押して

録音モードを選ぶ

押すと次のように切り換わります。

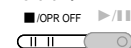
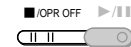
デジタル接続			アナログ接続	
シンクロ録音	1 曲シンクロ録音	通常録音	シンクロ録音	通常録音
SYNC #	SYNC1 #	表示なし	SYNC <.	表示なし

0～～～～～～～～～～～～～～～～～～ç

録音モードを“ SYNC ”に設定すると CS/BS 放送、FM 放送など、音声信号が常に出ているソースの場合、自動的に録音が始まるのでご注意ください。

4 **接続した機器を再生する**

自動的に録音が始まります。

	シンクロ録音	1 曲シンクロ録音
一時停止するには 右のときに自動的に一時停止します。	接続した機器を停止したり、無音状態がアナログ接続で 2 秒以上、デジタル接続で 7 秒以上続いたとき (曲番が 1 つ増えます)	CD の 1 曲目が終わったとき (曲番が 1 つ増えます)
録音を再開するには 右のときに自動的に再開します。	再び音声が入ったとき	CD を交換し、再び 1 曲目を再生したとき
停止するには 停止状態	録音中に ■/OPR OFF ▶/II を押す	1 分間停止状態のままにすると、自動的に電源が切れます。
電源を切るには 電源切状態	停止中に ■/OPR OFF ▶/II を押す	

お知らせ

- 次のような場合、1 曲シンクロ録音はできません。
  ① CD を 2 曲目以降から再生したとき
  ② 2 枚組の CD などで、1 曲目の曲番が“ 1 ”と表示されない CD を録音しようとしたとき
- シンクロ録音、1 曲シンクロ録音中は、手動で操作して一時停止することはできません。
- マイクから録音するときはシンクロ録音できません。

お願い

シンクロ録音時、曲によっては頭の部分が切れて録音される場合があります。このようなときは、20 ～ 21 ページ（通常録音）の手順で録音してください。

録音に関するお知らせ

■トラックマークのつきかた

以下のときに自動的にトラックマークがつきます。

デジタル接続

CD や MD から録音する場合
CD や MD の曲番どおりに、トラックマークが曲の変わり目につきます。（ただし、CD や MD によっては、曲番どおりにつかないこともあります。）

CD や MD 以外のデジタルソースから録音する場合
2 秒以上の無音部分を曲の変わり目としてトラックマークがつきます。

手動でつけるには
(➠ 26 ページ)

アナログ接続

2 秒以上の無音部分を曲の変わり目としてトラックマークがつきます。

手動でつけるには
(➠ 26 ページ)

お知らせ
曲間が短い、曲間に雑音が多いなどの理由で、トラックマークがつかない場合があります。また無音や音の小さい部分があると、曲中でもつく場合があります。このようなときは、録音終了後に、編集機能を使ってトラックマークを修正してください。(➠ 40 〜 45 ページ)

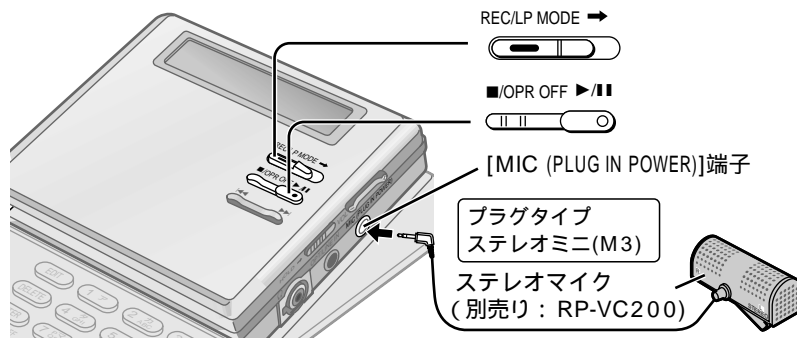
■接続する機器について（デジタル接続の場合）

- ポータブル CD プレーヤーから録音するときは、AC アダプターを使用し、耐振機能を " OFF " にしてください。(詳しくはお手持ちのポータブル CD プレーヤーの説明書をご覧ください。)
- 本機はサンプリングレートコンバーター内蔵のため、CS/BS チューナーや DAT デッキなどサンプリング周波数の異なるデジタル機器に接続しても、自動的に本機の周波数に変換して、デジタル録音できます。

■ MDLP（長時間ステレオ）録音について

- 1 枚の MD に通常ステレオ録音、LP2 ステレオ録音、LP4 ステレオ録音を混ぜて行うことができます。
- LP2/LP4 ステレオ録音された曲は、曲名の頭に自動的に「LP :」という文字が付き、MDLP 再生に対応していない機器で再生すると曲名の頭に「LP :」と表示されます。本機で再生した場合は表示されません。
- LP4 ステレオ録音は、特殊な圧縮方式によって長時間録音を実現しているため、録音されるものによっては、ごくまれに瞬間的な雑音が入る恐れがあります。音質を重視する場合は、通常ステレオ録音または LP2 ステレオ録音をおすすめします。
- 電池を入れ替えたり、AC アダプターを抜き差しすると、録音モードは通常ステレオ録音に戻ります。

マイクで録音する

- ホールド状態を解除する。
- 本体に充電式電池を入れる。
- 録音用 MD を入れる。

1 **マイクを接続する**（本機が停止中に行ってください。）
- [OPT/LINE IN]端子には何も接続しないでください。
- 本機の動作音が録音されないように、マイクを本機から遠ざけてください。
- ステレオインサイドホンを使っていてハウリング（ピーという音）が起きたら、インサイドホンとマイクの距離を離すか、音量を下げてください。

2 REC/LP MODE ➡
矢印の方向にスライドさせて
録音待機状態にする
さらにスライドすると LP2/LP4 モードが選べます（➠ 21 ページ）

3
❶ **[▶/❚❚]を押す**
❷ **マイクに向かって音を出す**

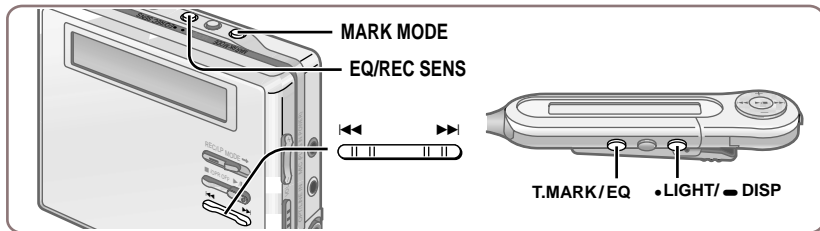
一時停止するには	**録音中に** ▶/❚❚ **を押す**	曲番が 1 つ増えます。 **録音を再開するには** もう一度押す。
停止するには **停止状態**	**録音中に** ■/OPR OFF **を押す**	1 分間停止状態のままにすると、自動的に電源が切れます。
電源を切るには **電源切状態**	**停止中に** ■/OPR OFF **を押す**	

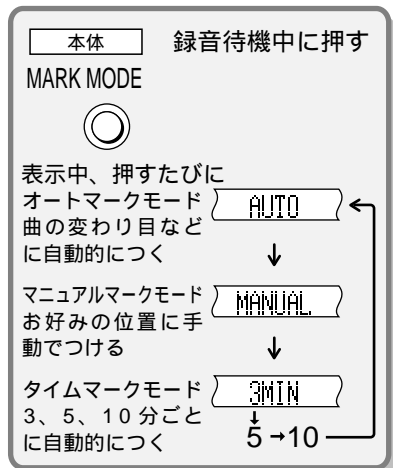
■トラックマークのつけかた

手動で、または一定時間の間隔を設定すると、その間隔で自動的につきます。(➠ 26 ページ)

■お使いいただけるマイク

ステレオマイク（別売り： RP-VC200、RP-VC300）をお買い求めください。

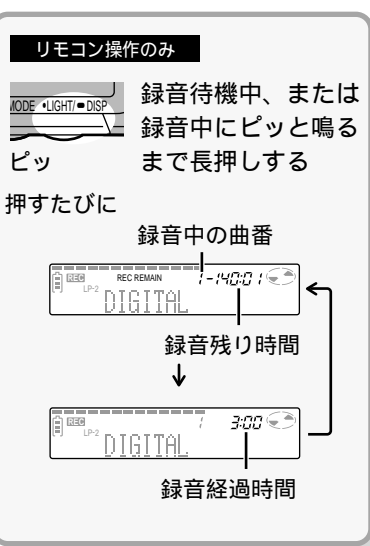
録音に便利な機能

トラックマークのつけかた

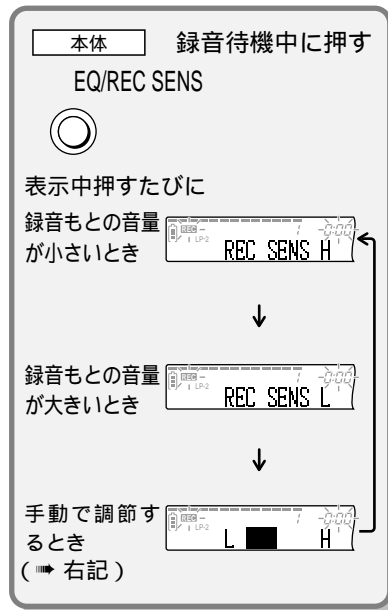
録音部分に「区切り」をつけることにより頭出しに便利です。(➠ 66 ページ)

マイクから録音するとき、“AUTO”は選べません。

■手動でつけるには

録音中に、トラックマークをつけたい位置で押す

“MANUAL”以外を選んだときも、この操作でトラックマークを手動でつけることができます。

録音残り時間を確かめる

録音モードが LP2,LP4 の場合はそれぞれのモードに対応した残り時間が表示されます。

録音感度を調節する

設定をしない場合、アナログ、マイク接続では“REC SENS H”に、デジタル接続では“REC SENS L”になります。

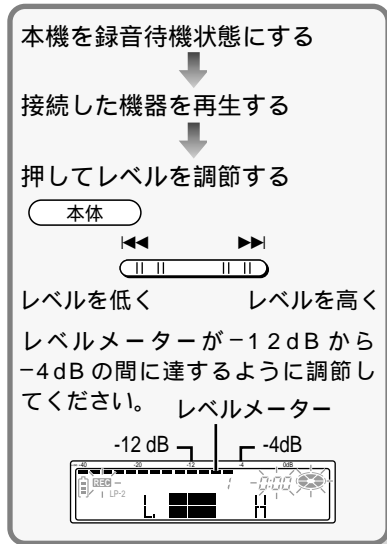
■録音状況に合った感度の設定

“REC SENS H”に適した録音

- アナログ接続でポータブル機器から録音
- デジタル接続で CS チューナー等から録音
- マイク接続で会議等を録音

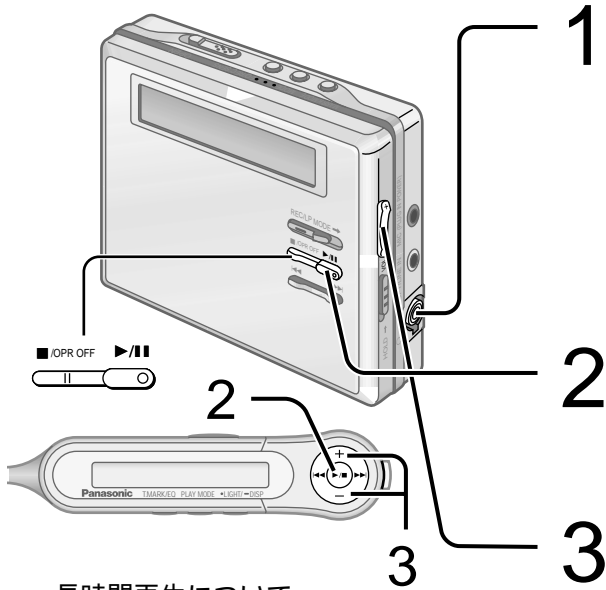
“REC SENS L”に適した録音

- アナログ接続でシステム機器から録音
- デジタル接続で通常の録音
- マイク接続でライブ等の大音量を録音

■録音レベルを手動で調節するには

- 録音中に設定を変えることはできません。
- アナログ、マイク接続で設定が REC SENS H, L のとき、録音レベルは自動的に調節されます。またお好みに合わせて手動で調節することもできます。
- デジタル接続の場合、録音感度の設定を変えてもインサイドホンから聞こえる音の大きさは変化しません。

お願い

一旦録音を終えると設定は解除されます。次に録音待機状態にしたとき、必要に応じて設定し直してください。

MDを聞く

■長時間再生について

- MDLP ステレオ再生

LP2/LP4 ステレオ録音された曲を再生することができます。(表示パネルに " LP-2 " あるいは " LP-4 " が表示されます。)

- モノラル再生

モノラル録音モードで録音されたディスクを再生することができます。(表示はされません。)

ディスク再生時に、録音された方法によって通常ステレオ、LP2、LP4、モノラル再生が自動的に切り換わります。

■リジューム機能について

停止後、または電源が切れたあと、本体の[▶/❚❚]、またはリモコンの[▶/■]を押すと、停止したところから再生します。ただし、ディスクを取り替えたり、電池を入れ直した場合は、1曲目から再生します。

お知らせ

- 再生中に、リモコンの表示が消えたり、表示内容に異常が見られたときは、いったんリモコンのプラグを本体から抜き、もう一度しっかりと差し込んでください。
- 本機は振動に対して、音飛びしにくくなっていますが、連続した振動に対しては、音が途切れる場合があります。

準備
① ホールド状態を解除する。(➡ 16 ページ)
② MD を入れる。(➡ 17 ページ)

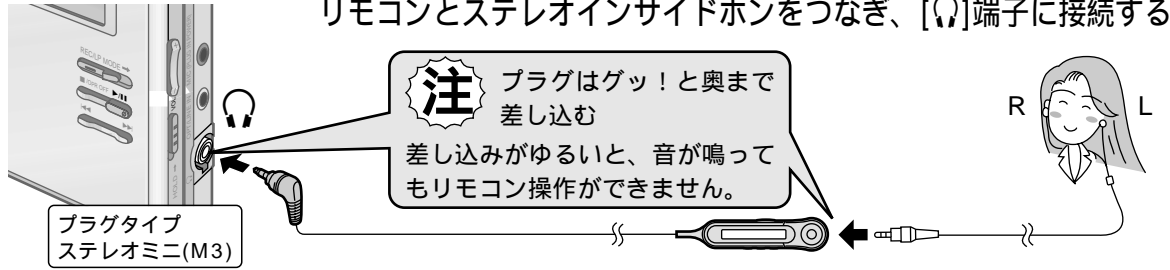
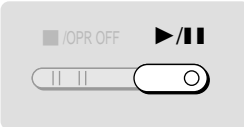
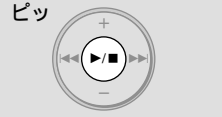
1 リモコンとステレオインサイドホンをつなぎ、[🎧]端子に接続する

注 プラグはグッ!と奥まで差し込む
差し込みがゆるいと、音が鳴ってもリモコン操作ができません。

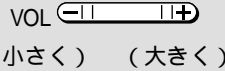
プラグタイプ
ステレオミニ(M3)

本体	リモコン

2 押して 再生を始める

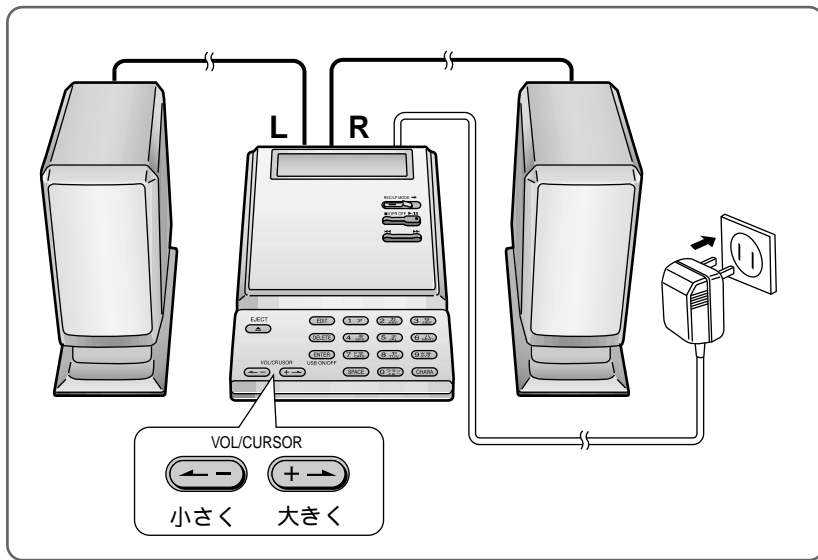
■/OPR OFF ▶/❚❚

全曲の再生を終了すると自動的に停止します。

3 押して 音量を調節する

VOL (小さく) (大きく)

音量レベルは 0 ～ 25 まで
(押し続けると連続的に切り換わります。)

	本体	リモコン	
一時停止するには	**再生中に** ■/OPR OFF ▶/❚❚ を押す **再生を再開するには** もう一度押す。	リモコンでは一時停止はできません。	
停止するには 停止状態	**再生中に** ■/OPR OFF ▶/❚❚ を押す	**再生中に** ピッ を押す	
	1分間停止状態のままにすると、自動的に電源が切れます。		
電源を切るには 電源切状態	**停止中に** ■/OPR OFF ▶/❚❚ を押す	停止後、約1分すると自動的に電源が切れます。	

MDを聞く

スピーカーで聞く

1 本体に、充電式電池を入れる
（➠ 13 ページ）

2 本体をマルチクレードルに取り付ける（➠ 13 ページ）

3 AC アダプターをマルチクレードルに接続する
（➠ 13 ページ）

必ず AC アダプターを接続してください。充電式電池だけではスピーカーから音が出ません。

4 スピーカーをマルチクレードルに接続する（➠ 16 ページ）

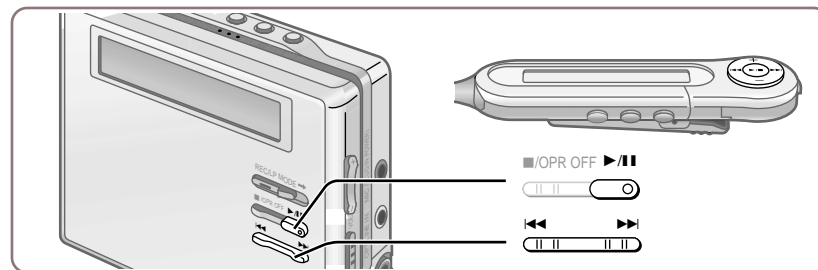
操作はステレオインサイドホンで聞くときと同様に、本体あるいはリモコンで行ってください。

■音量の調節は

マルチクレードルの［◀━ −, ＋━▶, VOL/CURSOR］で調節できます。（本体の[VOL,−, +]でも調節できます。）

お知らせ

- 録音中の音をスピーカーで聞くことができます。（ただし、マイクから録音する場合は聞けません。）
- パソコン上の音楽データの演奏を、本機のスピーカーで聞くことはできません。

いろいろな聞きかた

曲を前後にとび越す
（スキップ機能）

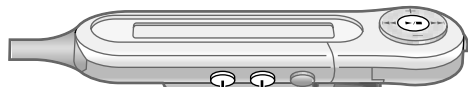
くり返し押すと、連続して曲をとび越せます。

早送り・早戻し
（サーチ機能）

好みの曲から聞く
（トラック指定機能）

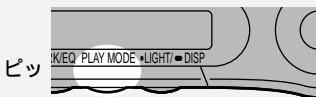
押して、選んだ曲を再生する

選んだ曲からディスクの最終曲まで順に再生します。

［⏮］または［⏭］を押したままにすると、曲が連続して変わります。

好みの曲を登録順に聞く（イントロスキャンメモリー再生） リモコン操作のみ

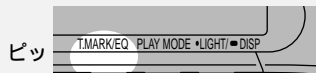
好きな曲を登録する

曲のイントロを聞きながら、好きな順番に登録できます。（最大16曲まで）

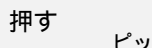
停止中に数回押して“INTRO”を表示させる

操作をしない場合、約1分後に自動的に電源が切れます。

押す

- 1曲目から順に始めの約10秒間のみイントロスキャン再生します。
- イントロスキャン中もスキップ機能は使えます。

登録したい曲番が点滅中（約10秒間）に押す

この操作をくり返して、曲番を登録する。

- 再生が始まってから押してください。
- 最終曲までいくと、最初の曲に戻ります。1度登録した曲は、とばして再生します。

押す

登録が完了します。
もう一度押すと、メモリー再生が始まります。

好きな曲を登録する（つづき）

■“END”、“FULL”が表示されたら
これ以上の登録はできません。表示（約2秒間）後、登録は自動的に終了します。
END：ディスクのすべての曲が登録されました。
FULL：登録曲数が最大の16曲になりました。これ以上登録できません。

■登録し直したいときは 全曲取消
停止中、“MEMO”と表示されている状態で［T.MARK/EQ］を約5秒間押す。
“CLEAR”と表示され、登録内容は消えます。その後、“INTRO”表示になるので登録し直してください。（➠32ページ）

■イントロスキャンを解除するには
停止中に[PLAY MODE]を押す。
（“INTRO”の表示が消えると通常の再生に戻っています。）

お知らせ

グループモード（➠35ページ）ではイントロスキャン再生、メモリー再生（右記）はできません。

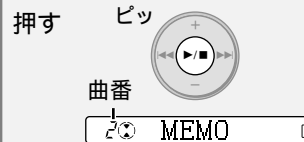
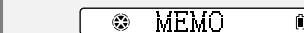
再生する（メモリー再生）

“MEMO”が表示されている場合はこの手順をとばし次に進む

停止中に数回押して“MEMO”を表示させる

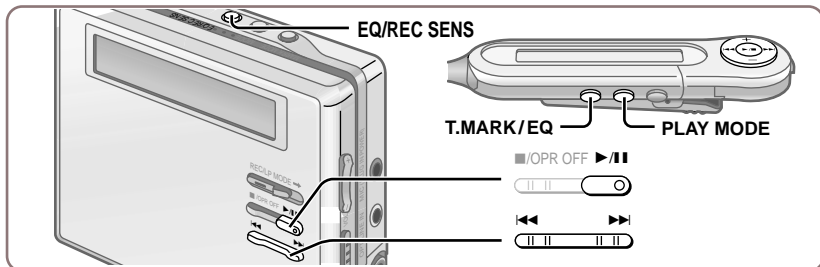
押す

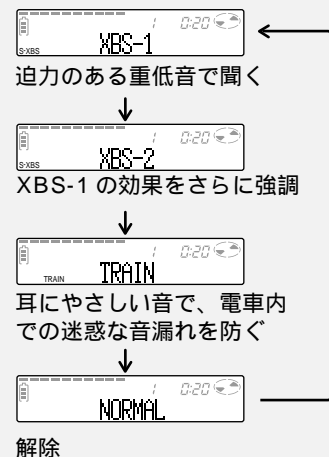
ピッ

曲番

MEMO

- 登録順に再生が始まります。
- メモリー再生中、リモコンでは曲名の表示後、“MEMO”と表示されます。
- [▶/■]を押すと、停止します。

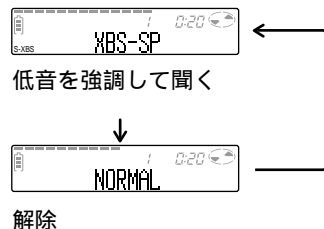
■ メモリー再生を解除するには
（登録内容は消えません。）
再生中あるいは停止中に[PLAY MODE]を押す。
（“MEMO”の表示が消えると通常の再生に戻っています。）

■ 登録した曲が解除されるのは
- 全曲取消 の操作をしたとき
- 電池が切れたとき
- ふたを開けたとき
- 電池ぶたを開けたとき
- 録音待機状態にしたとき
- [EDIT]を押し編集操作をしたとき
- Net MDを確立したとき

音質を変える

再生中または停止中に押す

リモコンも同様の表示で切り換わります。

■スピーカーで聞くときは

充電式電池を入れた本体をマルチクレードルに取り付けて、AC アダプターを接続すると、以下のように切り換わります。

押すたびに

リモコンも同様の表示で切り換わります。

イントロスキャン中、メモリー再生停止中（➠ 32 ～ 33 ページ）は、音質を変えることができません。

グループモードで聞く

グループ設定（ディスク内の連続した複数の曲をいくつかのグループにまとめる）されたディスクでは、グループ単位で再生が楽しめます。

まず、グループ設定をしてください。（➠ 46 ～ 47 ページ）

選んだグループの最終曲まで再生して停止します。

- 曲番は選んだグループの 1 曲目が " 1 " と表示されます。
- 停止中でも、リモコンに " INTRO " または " MEMO " が表示されていたら（イントロスキャンメモリー再生 ➠ 32 ～ 33 ページ）グループモードにできません。
- グループの設定がされていないディスクの場合 " NO GROUP "（リモコンでは " NO GRP "）と表示されます。

■グループ内で曲をスキップするには

再生中に[⏮]、[⏭]を押す

■グループ内で曲をサーチするには

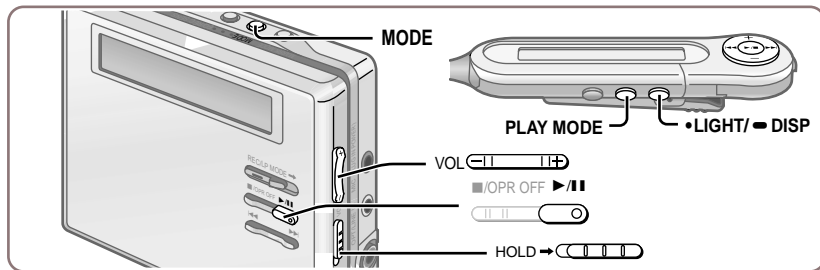
再生中に[⏮]、[⏭]を長押しする

■グループ内で好みの曲から聞くには

1. 停止中に[⏮]、[⏭]を押して曲を選ぶ
2. [▶/II]（本体）または[▶/■]（リモコン）を押す

選んだ曲からグループの最終曲まで順に再生します。

いろいろな聞きかた（つづき）

MODE
PLAY MODE
•LIGHT/ ▬ DISP
VOL
■/OPR OFF ▶/❚❚
HOLD ➡

くり返し聞く（リピートプレイ）／順不同に聞く（ランダムプレイ）

押すたびに
1 ⟲（1曲リピート）（
1曲をくり返す
⟲（全曲リピート）
ディスク内 [グループ内] の全曲をくり返す
RANDOM（ランダム）
ディスク内 [グループ内] の全曲を順不同に1回再生し自動的に停止
解除（表示なし）
[ ] は グループモード（➡ 35ページ）の場合

押すたびに
1 ⟲（1曲リピート）（
⟲（全曲リピート）
RND（ランダム）
INTRO または **MEMO**
（イントロスキャンメモリー再生）
ディスクモード（➡ 35ページ）で 停止中 の場合のみ表示されます。
解除（表示なし）

- 全曲リピートでは、再生中でもディスク（グループ）の1曲目と最終曲をはさんでの曲のとび越し、早送り、早戻しができます。
- ランダムプレイ中は、再生し終わった曲へのとび越し、早戻しはできません。
- ディスクを取り替えたとき、グループモードの切り換え（➡ 35ページ）を行ったときは、もう一度設定し直してください。

その他の便利な機能

コントラストの調整

本体とリモコンの表示パネルを、それぞれコントラスト調整することができます。

押すごとに、コントラストが少しずつ変化し、以下の範囲で調節できます。
本体： 0（うすい）～29（こい）
リモコン： 0（うすい）～15（こい）
－：うすく　　＋：こく

CONTRAST 15

リモコンでは“ **CONT15** ”のように表示されます。

リモコン表示パネルの点灯

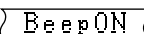
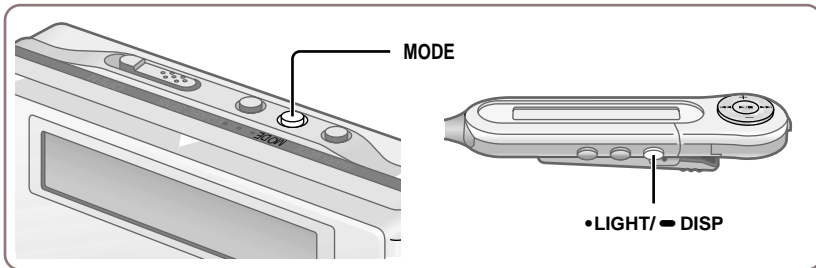
- リモコン操作時に約5秒間点灯し、暗い所で使うのに便利です。
- 曲名、ディスク名のスクロール時（文字が左に移動）は、スクロールが終わるまで点灯し続けます。（ただし最大20秒間です。）

■表示内容を確認したいとき

再生中または停止中に[• LIGHT/ ▬ DISP]を押す
表示パネルを約5秒間点灯させることができます。

リモコンの操作受付音

リモコンの操作ボタンを押したときに鳴る操作受付音を消すことができます。

準備
①電源を入れて、本体をホールド状態にする。（➡16ページ）
②本体の[▶/ ❚❚]を押しながら

表示内容を切り換える

リモコン操作のみ

再生中または停止中にピッと鳴るまで長押しする

- グループ名の前には“＊”、ディスク名の前には“▣”が表示されます。
- 曲名、グループ名、ディスク名が入っていないディスク の場合、本体では“NO TITLE”リモコンでは“ ”が表示されます。

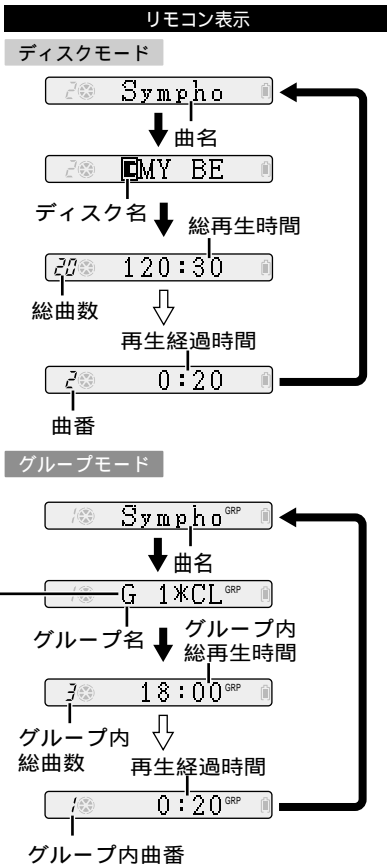
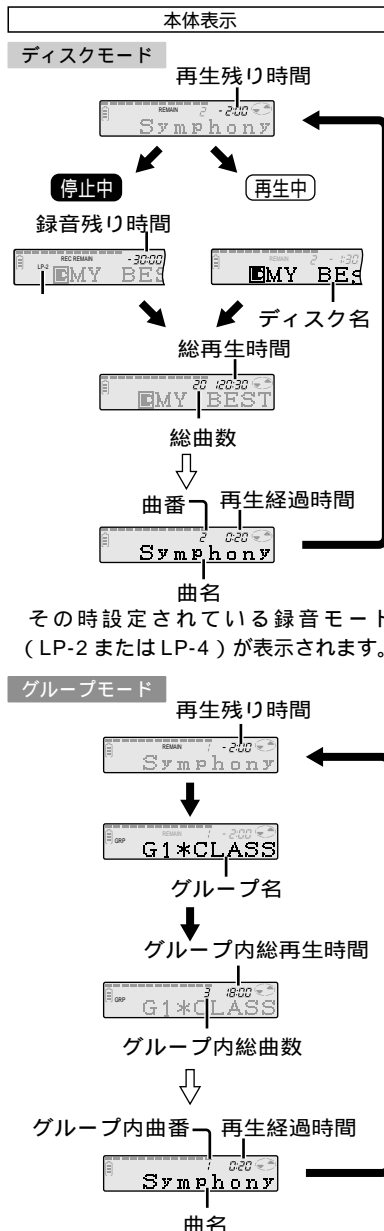
➡押すたびに切り換わります
⇨数秒表示した後、自動的に切り換わります

スクロール後、“G 1”が消えて、＊以下の文字が表示されます。

お知らせ

ディスクモード (GROUP OFF)のときとグループモード (GROUP ON)のときで、表示が異なります。(➠ 35 ページ)

表示内容を切り換える（つづき）

※その時設定されている録音モード（LP-2またはLP-4）が表示されます。

カナ, 漢字で登録された曲名の表示

ＭＤには文字を登録できる異なる２つの領域があります。

- **半角文字領域**
  カタカナ、アルファベット、数字、記号入力可能
- **全角文字領域**
  漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベット、数字、記号入力可能

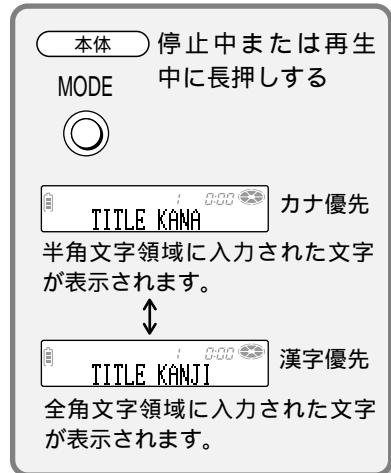
全角、半角両方の領域にタイトル入力されている場合、どちらの領域で入力された文字を表示するか、選ぶことができます。

本機では半角文字領域で入力された文字も全角で表示されます。

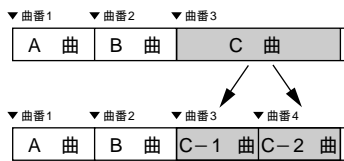
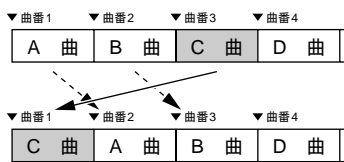
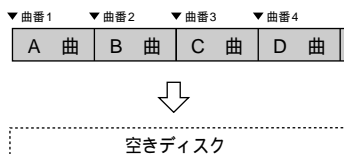
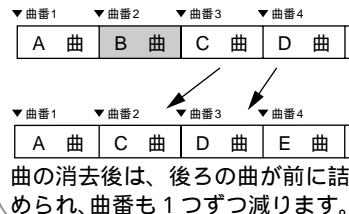
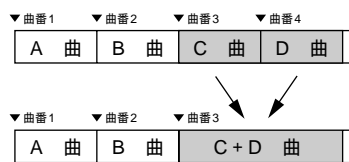
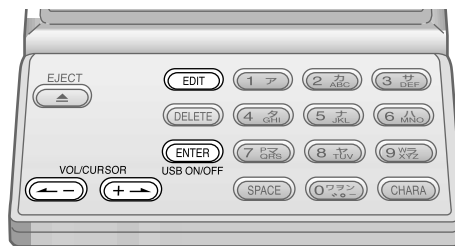
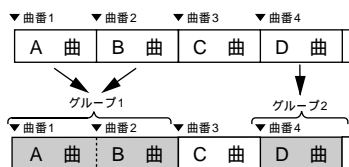
本体

停止中または再生中に長押しする

半角文字領域に入力された文字が表示されます。

全角文字領域に入力された文字が表示されます。

- 本機では 漢字、ひらがななど（全角文字領域）の入力はできません。付属のアプリケーションソフト BeatJam を使って入力してください。
- 半角、全角それぞれ一方の領域にのみ文字が入力されている場合は、上記の設定に関わらず入力されている領域の文字が表示されます。

MDを編集する

本体だけでは編集できません。必ずマルチクレードルに取り付けて操作してください。

1曲を2曲に分ける(ディバイド)

EDIT **分けたい曲の再生中に押す**

VOL/CURSOR **押して"DIVIDE?"を選ぶ**

曲を分けたい位置で押す

ENTER USB ON/OFF DIV POS +000?-

押した位置からの約4秒間が(モノラル、LP2では約8秒間、LP4では16秒間)くり返し演奏されます。

■分けた位置がずれていたら押して位置を調整する

−128～(約8秒) VOL/CURSOR ～+127(約8秒)

前後8秒で調整できます。(モノラル、LP2では16秒、LP4では32秒)

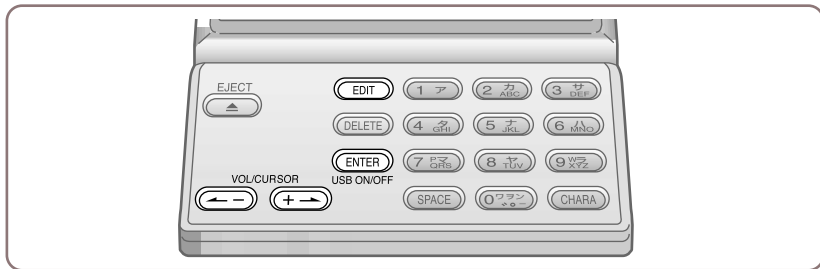
押す

確認の表示が出ます。

押す

"UTOC Writing"点灯後、編集が完了し停止状態になります。

■編集を途中で止めるには
[EDIT]を押す

お知らせ
- タイトルがついている曲を分けると、後ろの曲はタイトルなしとなります。
- ディバイド機能は、停止中に行うことはできません。

曲を移動する（ムーブ）

（例： 2 曲目を 3 曲目に移動する。）

EDIT　停止中に押す

VOL/CURSOR　押して“ MOVE ? ”を選ぶ

押す　ENTER USB ON/OFF

移動する曲番を選ぶ表示画面になります。

押して移動したい曲番を選ぶ

押す

移動先の曲番を選ぶ表示画面になります。

押して移動したい曲番を選ぶ

押す

確認の表示が出ます。

押す

“ UTOC Writing ” 点灯後、編集が完了し停止状態になります。

■途中で編集を止めるには
[EDIT]を押す

曲を移動する（ムーブ）（つづき）

再生（一時停止）中でもできます

1. **移動したい曲の再生(一時停止)中に[EDIT]を押す**
2. **[◀− −,+ −▶, VOL/CURSOR]を押して、“ MOVE ? ”を選び、[ENTER, USB ON/OFF]を押す**
3. **[◀− −,+ −▶, VOL/CURSOR]を押して、移動先の曲番を選び[ENTER, USB ON/OFF]を押す**
   確認の表示が出ます。
4. **[ENTER, USB ON/OFF]を押す**
   “ UTOC Writing ” 点灯後、編集が完了し停止状態になります。

全曲を消す（オール　イレース）

EDIT　停止中に押す

VOL/CURSOR　押して“ ALL ERASE ? ”を選ぶ

押す

確認の表示が出ます

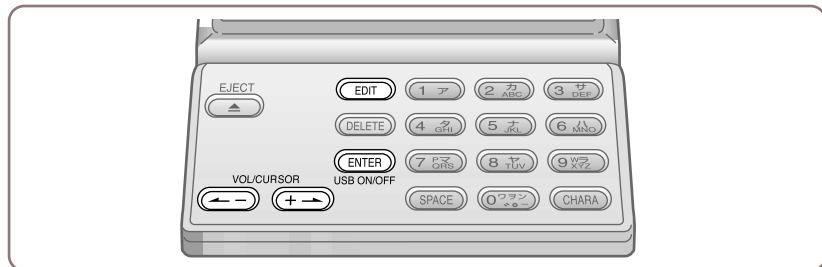
押す

“ UTOC Writing ” 点灯後、編集が完了し停止状態になります。
（“ BLANK DISC ”が表示されます。）

■途中で編集を止めるには
[EDIT]を押す

お知らせ

オール　イレース機能は、再生（一時停止）中に行うことはできません。

EJECT　EDIT　DELETE　ENTER　USB ON/OFF　VOL/CURSOR　SPACE　CHARA

1 曲ずつ消す（トラック　イレース）

EDIT　**停止中に押す**

VOL/CURSOR　**押して“TRACK ERASE ? ”を選ぶ**

押す　ENTER　USB ON/OFF　TRK ERASE 1 ?

曲番を選ぶ表示画面になります。

押して消したい曲を選ぶ

曲番下がる　VOL/CURSOR　曲番上がる

確認の表示が出ます。

“ UTOC Writing ” 点灯後、編集が完了し停止状態になります。

■途中で編集を止めるには [EDIT]を押す

再生（一時停止）中でもできます

1 **消したい曲の再生（一時停止）中に[EDIT]を押す**

2 **[◀ −,+ ▶, VOL/CURSOR] を押して、“ TRACK　ERASE? ” を選び[ENTER, USB ON/OFF] を押す**

確認の表示が出ます。

3 **[ENTER, USB ON/OFF]を押す**

“ UTOC Writing ” 点灯後、編集が完了し停止状態になります。

2 曲を 1 曲にまとめる（コンバイン）

（例：2 曲目と 3 曲目をまとめる。）

EDIT　**まとめる 2 曲の後ろの曲の再生中に押す**

VOL/CURSOR　**押して“ COMBINE ? ”を選ぶ**

確認の表示が出ます。

上記の場合、曲番 2 の終端 8 秒間と、曲番 3 の曲頭 8 秒間が、くり返し演奏されます。（モノラル、LP2 では 16 秒、LP4 では 32 秒）

“ UTOC Writing ” 点灯後、編集が完了し停止状態になります。

■途中で編集を止めるには [EDIT]を押す

停止中でもできます

1 **停止中に[EDIT]を押す**

2 **[◀ −,+ ▶, VOL/CURSOR] を押して、“ COMBINE? ” を選び[ENTER, USB ON/OFF] を押す**

まとめる 2 曲を選ぶ表示画面になります。

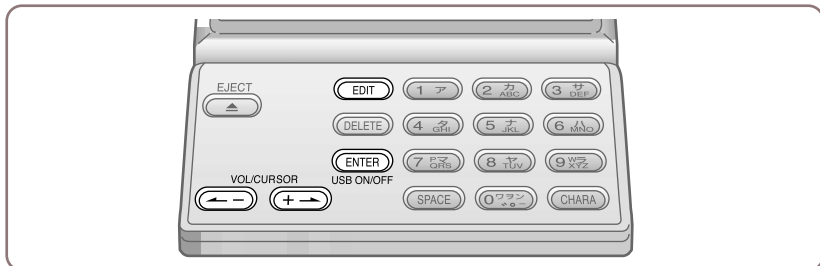
3 **[◀ −,+ ▶, VOL/CURSOR] を押して、まとめる 2 曲の曲番を選び[ENTER, USB ON/OFF] を押す**

確認の表示が出ます。

4 **[ENTER, USB ON/OFF]を押す**

“ UTOC Writing ” 点灯後、編集が完了し停止状態になります。

お知らせ

- 曲名は前の曲のものになります。
- コンバインの操作ができない原因として、次のようなものがあります。
  - ・1 曲目の再生中に、コンバインの操作を行ったとき
  - ・まとめようとする 2 曲が通常ステレオ録音、モノラル、LP2、LP4 それぞれ異なる録音モードで録音されているとき

曲をグループにまとめる（グループ）

グループをつくる（GROUP SET）

連続した何曲かをグループにまとめてタイトルをつけることができます。
グループは最大 99 個まで作れます。
（例：3～5 曲目をグループにまとめる。）

EDIT　停止中に押す

VOL/CURSOR　押して“GROUP ？”を選ぶ

押す
ENTER USB ON/OFF
GRP SET ?

押す
ENTER USB ON/OFF
GRP SET 1 --
グループにまとめる最初の曲を選ぶ表示画面になります。

押して最初の曲番を選ぶ

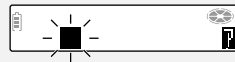
押す

グループにまとめる最後の曲を選ぶ表示画面になります。

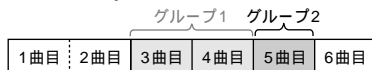
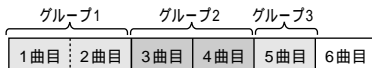
押して最後の曲番を選ぶ

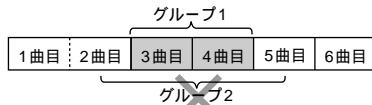
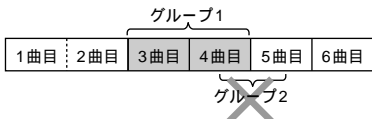
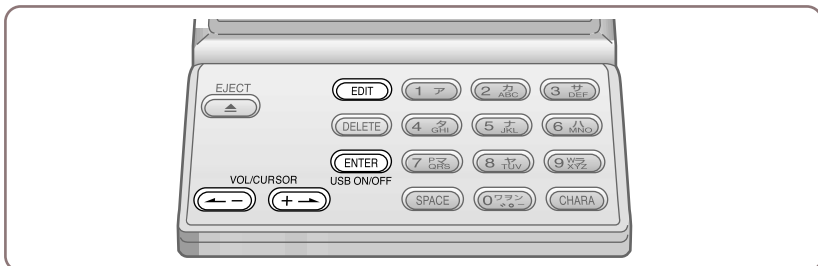
押す

文字を入力する（➠ 52 ページ）

押す

■途中で編集を止めるには [EDIT]を押す

お知らせ

- 1 曲だけでもグループにすることができます。
  例）5 曲目だけでグループ 2 をつくる。

- グループを追加する場合、曲の並びの順にグループ番号が付きかわります。
  例）上図の 1 曲目と 2 曲目をグループにすると、グループ 1、2 がそれぞれグループ 2、3 になる。

■グループにまとめられない例

- 連続していない曲どうしをグループにまとめることはできません。

- 1 曲を複数のグループに入れることはできません。

曲をグループにまとめる（グループ）（つづき）

グループタイトルを変更する（GROUP TITLE）

（例：グループ 3 のタイトルを変更する。）

EDIT　**停止中に押す**

VOL/CURSOR　**押して “ GROUP ? ” を選ぶ**

押す

ENTER USB ON/OFF　GRP -SET ?-

押して “ GRP TITLE ? ” を選ぶ

VOL/CURSOR　GRP -TITLE ?-

押す

ENTER USB ON/OFF　-G1＊CLASS

タイトルを変更するグループを選ぶ表示画面になります。

押してタイトルを変えたいグループを選ぶ

VOL/CURSOR　-G3＊JAZZ

押す

グループタイトル入力画面になります。

文字を入力する **(➠ 52 ページ)**

押す

“ UTOC Writing ” 点灯後、編集が完了し停止状態になります。

■途中で編集を止めるには [EDIT]を押す

グループを解除する（GROUP RELEASE）

（例：グループ 2 を削除する。）

EDIT　**停止中に押す**

VOL/CURSOR　**押して “ GROUP ? ” を選ぶ**

押す

ENTER USB ON/OFF　GRP -SET ?-

押して “ RELEASE ? ” を選ぶ

VOL/CURSOR　GRP-RELEASE ?-

押す

削除するグループを選ぶ表示画面になります。

押して削除したいグループを選ぶ

押す

ENTER USB ON/OFF　G2 -OK ?-

確認の表示が出ます

押す

ENTER USB ON/OFF　UTOC Writing

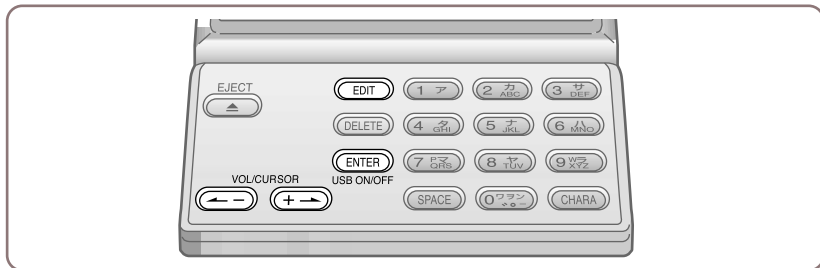
“ UTOC Writing ” 点灯後、編集が完了し停止状態になります。

■途中で編集を止めるには [EDIT]を押す

お知らせ

- グループ編集を行った MD に他の編集操作（DIVIDE, MOVE など）を行うと、編集内容に応じて自動的に UTOC 情報が更新されます。
- 本機でグループ編集を行った MD を、グループ機能に対応していない機種で編集操作を行うとグループの管理情報が使えなくなる可能性があります。
- 本機でグループ編集を行った MD を、グループ管理機能に対応していない機種で再生するとディスクタイトルが下記のように正しく表示されません。

例）0; MY BEST//1-3;CLASSIC//4-8 ...

MD にタイトルをつける

曲やディスクにタイトルをつける

- ディスク名は最大 100 文字、曲名は 1 曲につき最大 100 文字（MD**LP** 長時間録音されたものでは最大 97 文字）まで入力できます。
- 1 枚の MD には最大 1792 文字まで入力できます。ただし、MD**LP** 長時間録音をしたり、グループの設定をすると入力できる文字数は減ります。(➠ 51 ページ)
- 全角文字領域には入力できません。(➠ 39 ページ) BeatJam を使って入力してください。

ディスクタイトルをつける

停止中に押す

“ TITLE ？ ” が表示されます。

押す

押す

タイトル入力画面になります。

文字を入力する (➠ 52 ページ)

押す

“ UTOC Writing ” 点灯後、編集が完了します。

■ディスクタイトルを入力したあとは

自動的に曲のタイトルをつける表示画面になります。「**トラックタイトルをつける**」(➠ 51 ページ) の曲番を選ぶ手順から操作してください。

■タイトル入力を途中で止めるには [EDIT]を押す

トラックタイトルをつける

停止中に押す

“ TITLE ？ ” が表示されます。

押す

押して曲番を選ぶ

押す

タイトル入力画面になります。

文字を入力する (➠ 52 ページ)

押す

“ UTOC Writing ” 点灯後、編集が完了します。その後、再び曲番を選ぶ表示画面になり、続けてタイトルを入力することができます。

■タイトル入力を途中で止めるには [EDIT]を押す

再生（一時停止）中でもできます

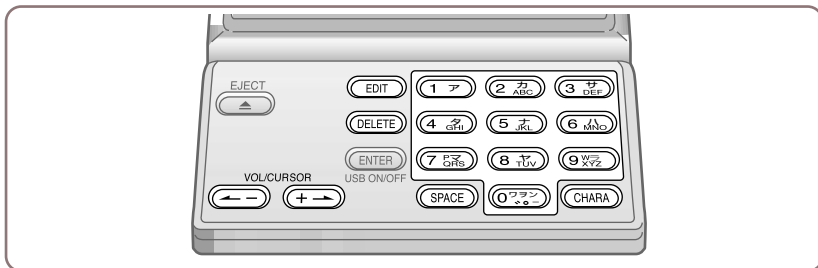
1. **タイトルをつけたい曲の再生（一時停止）中に[EDIT]を押す**
2. **[ENTER, USB ON/OFF]を押す**
   文字入力画面になります。
3. **文字を入力する（➠52 ページ）**
4. **[ENTER, USB ON/OFF]を押す**
   “ UTOC Writing ” 点灯後、編集が完了し停止状態になります。

お知らせ

再生中に曲のタイトルをつけたとき、編集が終わるまで、その曲はくり返し演奏されます。

タイトル入力できる文字数

- 100 文字を超えるタイトルがついているディスクのタイトルを、本機で変更すると、“ TITLE OVER ” が表示され、文字入力画面に入ります。ただし[ENTER, USB ON/OFF]を押し、編集を完了した時点で 100 文字を超える文字は削除されます。
- MD**LP** 長時間録音された曲にはトラックタイトルに「LP:」3 文字分が自動的に記録されるため、曲数が多いと入力できる文字数は減ります。またグループの設定をすると、グループの管理情報が記録されるため、同様に入力できる文字数は減ります。カナ文字で入力する場合はその約半分の文字数になります。

例) 50 曲を MDLP 長時間録音し、4 グループ設定した場合
➠ 1 タイトル平均
英数字では約 25 文字、カナ文字では約 11 文字入力できます。

文字入力のしかた

タイトル入力画面にしたあと、以下の方法で入力してください。

CHARA **押して、文字の種類を選ぶ**

押すたびに

押して、文字を選ぶ

VOL/CURSOR **押す**

文字が確定され、カーソルが 1 つ右に移り､次の入力状態になります。

■文字の種類と各ボタンに割り当てられた文字

各ボタンを押すたびに、1 文字ずつ順に表示されます。

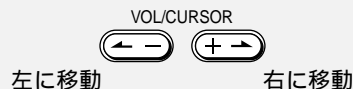
ボタン	カタカナ	アルファベット 大文字	アルファベット 小文字	数字
1 ア	アイウエオ ァィゥェォ			1
2 カ ABC	カキクケコ	ABC	abc	2
3 サ DEF	サシスセソ	DEF	def	3
4 タ GHI	タチツテト ッ	GHI	ghi	4
5 ナ JKL	ナニヌネノ	JKL	jkl	5
6 ハ MNO	ハヒフヘホ	MNO	mno	6
7 マ PQRS	マミムメモ	PQRS	pqrs	7
8 ヤ TUV	ヤユヨ ャュョ	TUV	tuv	8
9 ラ WXYZ	ラリルレロ	WXYZ	wxyz	9
0 ワヲン	ワヲン゛゜ー			0
SPACE	！”＃＄％＆’（）＊＋， －．／：；<＝>？＠＿｀			

お知らせ

数字入力時、または文字入力時に異なるボタンを押すと、前に入力した数字・文字が確定されます。

文字を削除するには

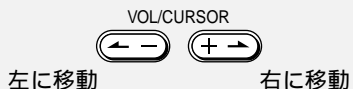
押してカーソルを動かし、削除する文字の上に置く

VOL/CURSOR
左に移動　右に移動

DELETE **押す**

カーソル位置の文字が削除され、後ろに文字があるときは前に詰まります。

文字の間に新しい文字や空白を入れるには

押してカーソルを動かし、挿入位置の右の文字の上に置く

VOL/CURSOR
左に移動　右に移動

- **新しい文字を入れるとき**
  1 ア など入力したい文字・数字・記号ボタンを押す
- **空白を入れるとき**
  SPACE **押す**

゛゜ーを入力するには

0 ワヲン **押す**

濁点（゛）や半濁点（゜）は表記可能なカタカナの後ろにだけ入力できます。あり得ない表記の場合は選択候補として現れません。

文字を変更するには

1 変更したい文字を削除する
2 新しい文字を入力する

入力中に 1 文字空けるには

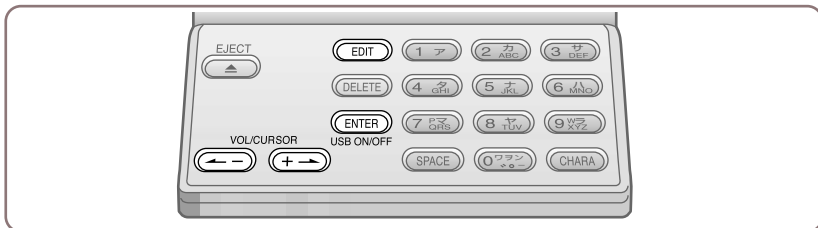
[＋→, VOL/CURSOR]を押す

カーソルが 1 つ右に移動します。

■途中で編集を止めるには
[EDIT]を押す

お知らせ

記号の“ ／ ”は連続して入力することはできません。

MD にタイトルをつける（つづき）

他の MD にタイトルをコピーする（タイトルステーション）

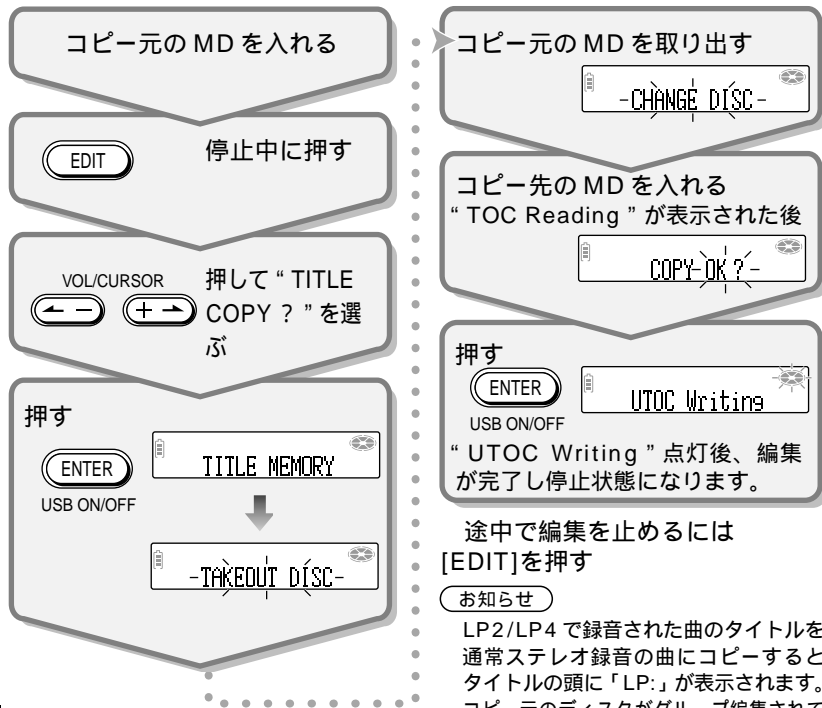
MD につけたタイトルを一時的に本機に記憶させ、他の MD にコピーすることができます。

操作のまえに

- 再生専用 MD や、未録音の MD（BLANK DISC）は使用できません。
- 両方の MD の曲数が同じときだけ、コピーできます。
- コピー先の MD にタイトルがついている場合、本機能を使うと、タイトルはすべて新しいものに置き換わります。

■途中で編集を止めるには [EDIT]を押す

お知らせ

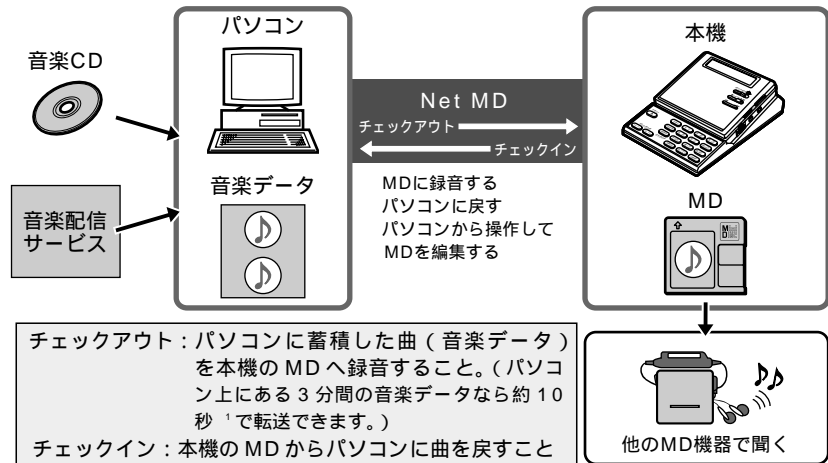
- LP2/LP4 で録音された曲のタイトルを通常ステレオ録音の曲にコピーするとタイトルの頭に「LP:」が表示されます。
- コピー元のディスクがグループ編集されている場合グループの情報もコピーされます。

パソコンと組み合わせて使う

こんなことができます

マルチクレードルの USB 端子にパソコンを接続することで、音楽 CD やインターネット上の音楽配信サイトからパソコンに蓄積した音楽データを本機の MD に録音することができます。

音楽CD
音楽配信サービス
パソコン
音楽データ
Net MD
チェックアウト
チェックイン
- MDに録音する
- パソコンに戻す
- パソコンから操作してMDを編集する

本機
MD
他のMD機器で聞く

チェックアウト： パソコンに蓄積した曲（音楽データ）を本機の MD へ録音すること。（パソコン上にある 3 分間の音楽データなら約 10 秒※1 で転送できます。）
チェックイン： 本機の MD からパソコンに曲を戻すこと

※ 1 LP4 モードで OpenMG 形式ファイルを MD に転送する時の速度です。また、1 回の転送につき数秒のデータ記録時間（MD への UTOC 書き込み）がかかります。

■ Net MD でできること

- パソコン上に蓄積した音楽データを、BeatJam で OpenMG 形式※2 に変換し、本機に転送して MD に録音できます。（➡ 61 ページ）
  - LP2/LP4 モードでも録音できます。（モノラル録音はできません。）また、各曲のタイトルも記録されます。
  - 音楽 CD の場合はパソコンへの録音と同時に MD にチェックアウトすることができます。
  - 録音した MD は、CD から録音した MD と同じように、本機や他の MD 機器で再生することができます。またアナログ接続で他の MD に曲を録音することもできます。
  - 1 つの音楽データをチェックアウトできる回数には、制限があります。（詳しくは BeatJam の取扱説明書や配信サイトの説明をご覧ください。）
- チェックアウトした音楽データをパソコンに戻せば（チェックイン）、再び別のメディアにチェックアウトして使用することができます。（➡ 62 ページ）
- パソコンから本機を操作して、MD の曲を並べ変えたり、タイトルを付けたりできます。（➡ 63 ページ）

※ 2 OpenMG 形式：著作権保護のために音楽データを暗号化した形式です。

音楽は、著作物として著作権法に保護されています。
本機および BeatJam では、著作権保護技術「OpenMG」を使用しています。

パソコンと組み合わせて使う（つづき）

ご使用の前に

■パソコンに必要な環境については

BeatJam の取扱説明書をご覧ください。

お知らせ

- **BeatJam と Net MD USB ドライバーは Windows OS のパソコンにのみインストールできます。Macintosh OS のパソコンにはインストールできません。**
- **SJ-MR250 と付属のアプリケーションソフト、ドライバーをインストールしたパソコンの組み合わせでのみ、Net MD が正しく動作します。複数の SJ-MR250 を同時に接続したり、他の Net MD 機器を組み合わせたりしたときの動作は保証いたしません。**
- 推奨環境を満たしていても、そのすべてのパソコンの動作を保証するものではありません。
- 本機からのパソコン操作はできません。
- パソコンの音は本機のスピーカーまたはステレオインサイドホンからは聞こえません。

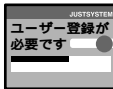
ユーザー登録のお願い

本機（SJ-MR250）と BeatJam のご使用に際して、バージョンアップなどのサポートを受ける場合に必要ですので、必ずそれぞれのユーザー登録をしていただきますようお願いいたします。

■ 本機（SJ-MR250）

インターネットを利用して、当社ホームページで登録していただくか（アドレス：http://www.panasonic.co.jp/products/audio/index.html）、ハガキを使用して登録していただくことができます。詳しい登録方法については、同梱の「ユーザー登録について」ハガキをご覧ください。

■ BeatJam

インターネットを利用して登録するか、または付属のユーザー登録ハガキを使用して登録してください。（ハガキは CD-ROM といっしょに透明の袋の中に入っています。）

インストールする

■初めて Net MD を使用する場合は

まずアプリケーションソフト **BeatJam** と **Net MD USB ドライバー**をパソコンにインストールする必要があります。

BeatJam と Net MD USB ドライバーは付属の CD-ROM に入っています。パソコンの指示に従ってインストールしてください。

- BeatJam、パソコンの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- OS インストール用の CD-ROM が必要になる場合があります。お手元にご用意ください。

1 BeatJam と Net MD USB ドライバーのインストール

❶ **パソコンの電源を入れ、OS を起動させる**

❷ **CD-ROM（付属）をパソコンの CD-ROM ドライブに入れる**

セットアップ開始画面が表示されます。

❸ **セットアップ開始画面の “BeatJam のセットアップ” をクリックする**

あとは、画面の指示に従ってインストールしてください。

必要なアプリケーション、ドライバーが全てインストールされます。

■セットアップ画面が表示されないときは

BeatJam 取扱説明書の 12 ページ「CD-ROM を入れてもセットアップ開始画面が表示されない」の操作を行ってください。

お知らせ

OS の設定によっては、下記のような画面が表示されることがあります。“続行” をクリックして、インストールを続けてください。

画面は Windows XP Home Edition の一例

（➠ 次ページに続く）

パソコンと組み合わせて使う（つづき）

インストールする（つづき）

2 接続

USB ケーブル（付属）を使って、本機とパソコンを接続する

パソコンに付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

お願い

- 必ず付属の USB ケーブルで接続してください。
- USB ハブおよび USB 延長ケーブル経由で接続した場合の動作は保証しません。
- USB ポートがパソコンに複数ある場合は、ルートハブ対応の端子に接続してください。（ルートハブ対応の端子についてはパソコンに付属の取扱説明書をご覧ください。）
- パソコンや本機の電源が入っている状態で USB ケーブルを抜き差しするときは
  - パソコン側を抜き差ししてください。
  - 抜いた後にもう一度差し込むときは、5 秒以上の間隔を開けてください。すぐに差し込むと正しく動作しないことがあります。

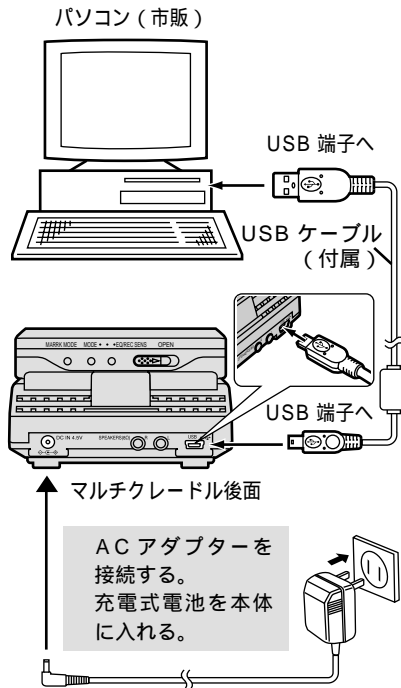
パソコン（市販）

USB 端子へ

USB ケーブル（付属）

USB 端子へ

マルチクレードル後面

- **AC アダプターを接続する。**
- **充電式電池を本体に入れる。**

3 確認

BeatJam と Net MD USB ドライバーが正しくインストールされたかを確認してください。

■ **BeatJam**

正しくインストールされると、パソコンのデスクトップ上に **BeatJam、JS ユーザー登録・確認、BeatStream** のアイコンが現れます。

■ **Net MD USB ドライバー**

❶ **マルチクレードルの ENTER USB ON/OFF を押して Net MD を確立する**

本体の表示パネルに " Net MD " が表示されます。

❷ **デバイスが認識されているか確認する**（➠ 59 ～ 60 ページ）

画面のリスト内にある項目は、ご使用のパソコン環境に応じて異なる場合があります。

Windows 2000 Professional をご使用の場合

①" **スタート** " メニューから " **設定** " → " **コントロールパネル** " を選びクリックする

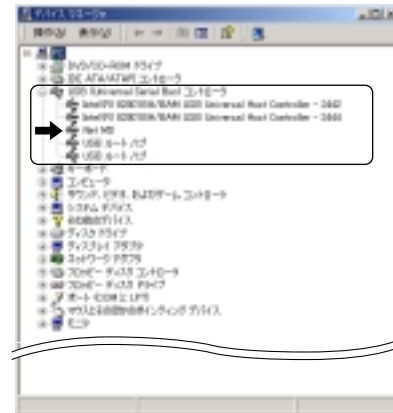
②コントロールパネルの画面で、" **システム** " のアイコンをダブルクリックする

③" **ハードウェア** " のタブを選び、" **デバイスマネージャ** " をクリックする

" 表示 " が " デバイス（種類別）" になっているか確認してください。

④デバイスが認識されていることを確認する

" **USB (Universal Serial Bus) コントローラ** " の項目の中に " **Net MD** " が認識されていることを確認してください。

画面の一例

Windows XP Home Edition/Professional をご使用の場合

①" **スタート** " メニューから " **コントロールパネル** " を選びクリックする

②コントロールパネルの画面で、" **パフォーマンスとメンテナンス** " のアイコンをクリックする

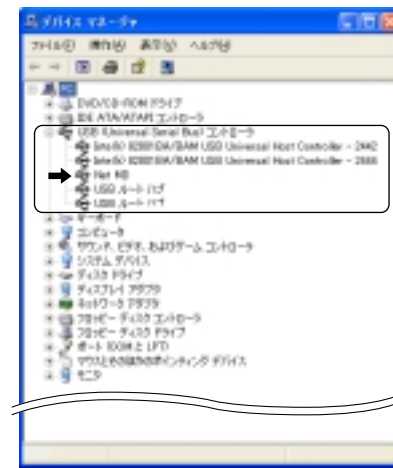
③" **システム** " のアイコンをクリックする

④" **ハードウェア** " のタブを選び、" **デバイスマネージャ** " をクリックする

" 表示 " が " デバイス（種類別）" になっているか確認してください。

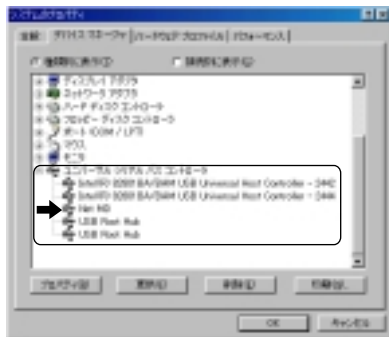
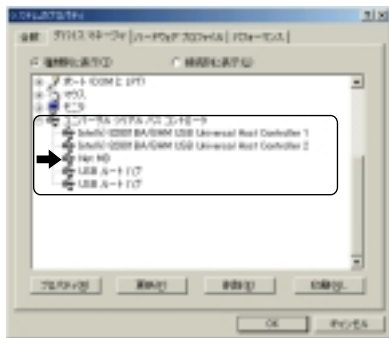
⑤デバイスが認識されていることを確認する

" **USB (Universal Serial Bus) コントローラ** " の項目の中に " **Net MD** " が認識されていることを確認してください。

画面の一例

パソコンと組み合わせて使う（つづき）

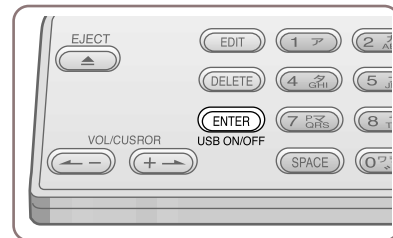
インストールする（つづき）

Windows 98/98 Second Edition または Windows Millennium Edition をご使用の場合

①**“スタート”**メニューから**“設定”**→**“コントロールパネル”**を選びクリックする
②コントロールパネルの画面で、**“システム”**のアイコンをダブルクリックする
③**“デバイスマネージャ”**のタブをクリックする
“種類別に表示”にチェックが入っているか確認してください。
④デバイスが認識されていることを確認する
“ユニバーサル シリアル バス コントローラ”の項目の中に**“Net MD”**が認識されていることを確認してください。

Windows 98/98 Second Edition の一例

Windows Millennium Edition の一例

デバイスが認識されていない場合は、USB ケーブルを抜き差ししてみてください。それでも認識されない場合は、パソコンを再起動してください。

MD に録音する（チェックアウト）

準備
①**パソコンの電源を入れ、OS を起動させる**
②**本機とパソコンを USB ケーブルで接続する（➠ 58 ページ）**
③**本機に録音用の MD と充電式電池を入れ、マルチクレードルに取り付ける**
MD の誤消去防止つまみを閉じておく。（➠ 67 ページ）

パソコンで BeatJam を起動し、録音したい曲(OpenMG 形式)**を MD にチェックアウトする**
詳しい操作については、BeatJam の取扱説明書 15 ～ 23 ページをご覧ください。

チェックアウトが終わると、

“UTOC Writing”点灯後、録音が終了します。

Net MD が終了します。

パソコンの曲にタイトルが付いている場合は、タイトルも MD に記録されます。

■SP (通常ステレオ) /LP2/LP4 モードを設定するには

BeatJam の“チェックイン／チェックアウト”画面の**“MD 録音モード”**をクリックして選択します。
ステレオ長時間モード（LP）
曲のビットレートによって LP2 モードまたは LP4 モードに設定されます。
● 132 kbps/105 kbps の場合：LP2
● 66 kbps の場合；LP4
ステレオモード（SP）
曲のビットレートにかかわらず、通常ステレオモードになります。MD**LP** に対応していない MD 機器でも再生できます。
（➠ BeatJam 取扱説明書 22 ページ）

お知らせ
● チェックアウト中の曲を本機で再生することはできません。
● 録音が終了すると、BeatJam の“デバイス／メディア”画面にチェックアウトした曲が表示され、曲が MD に録音されたことを確認できます。
● パソコン上の音楽データに、再生期間、再生回数などの制限がある場合は、MD に録音できません。

パソコンに戻す（チェックイン）

チェックアウトした曲を元のパソコンに戻すと、再び別のメディアにチェックアウトして使用できます。チェックインすると、MD内の曲は削除され、その曲のパソコン側での残りのチェックアウト回数が1回増えます。

準備

①パソコンの電源を入れ、OSを起動させる
②本機とパソコンをUSBケーブルで接続する（➠ 58ページ）
③チェックアウトされた曲が録音されているMDと充電式電池を本体に入れ、マルチクレードルに取り付ける

停止中または電源切時に押す

パソコンでBeatJamを起動して、曲をチェックインする

詳しい操作については、BeatJamの取扱説明書24～25ページをご覧ください。

チェックインが終わると、

“UTOC Writing”点灯後、停止します。

ENTER
USB ON/OFF

押す

Net MDが終了します。

■チェックアウト、チェックインに関するお知らせ

- 曲間に全く無音部のない2曲をチェックアウトすると、MDでは曲間にわずかな無音部が録音され、とぎれたように聞こえることがあります。このような場合、BeatJamの操作で2曲をつなげて1曲にしてからMDにチェックアウトすると、とぎれのない1曲として録音することができます。
- MDのグループにチェックアウトしたときに、ディスク名、グループ名、タイトル名などの情報が多すぎた場合、エラー表示が出て曲がどのグループにも属さないかたちで録音されることがあります。
- チェックアウトした曲を本機の操作でERASE/DIVIDE/COMBINEすると、パソコンにチェックインできなくなります。MOVEやタイトル編集は自由に行えます。
- チェックアウトされたデータは、元のパソコンにしか、チェックインできません。
- パソコン上にチェックアウト元の曲が無い状態で（パソコン上で曲を削除したり、チェックアウト元以外のパソコンの場合）チェックインすると、MD内の曲は削除され、パソコンにも曲は戻らないのでご注意ください。

パソコンから本機のMDを操作する

- **MDの演奏**
- **MDの編集**
  - ・タイトルを編集する
  - ・曲を並べかえる（MOVE）
  - ・不要な曲を消す（ERASE）

詳しくはBeatJamの取扱説明書をご覧ください。

編集が終わったら

本体の[ENTER, USB ON/OFF]を押してNet MDを終了します。
“UTOC Writing”点灯後、編集内容がMDに記録されます。

お知らせ

- BeatJamの画面の[⏏]（CD/メディアの取り出し）ボタンを押しても、本機からMDを取り出すことはできません。
- BeatJamでMDの全曲を削除した場合、ディスクタイトルの表示が更新されない場合があります。MDの情報をパソコン側で表示するには、[ENTER, USB ON/OFF]を押してNet MDをいったん終了し、もう一度押してNet MDの状態にしてください。

■Net MD使用中に操作できるボタン

- **音量調節ボタン**
  [VOL ,–, +]（本体）
  [–, +]（リモコン）
  [◀— –,+ —▶, VOL/CURSOR]
  （マルチクレードル）
- **音質切換ボタン**
  [EQ/REC SENS]（本体）
  [T.MARK/EQ]（リモコン）
- **Net MD確立／終了ボタン**
  [ENTER, USB ON/OFF]
  （マルチクレードル）

お知らせ

Net MDの状態でMDの録音や編集を行っているときに、ふたが開かない場合があります。ディスクを取り出すときは[ENTER, USB ON/OFF]を押して、いったんNet MDを終了してください。

お願い

チェックイン／チェックアウト中，編集中は、次のようなことはしないでください。音楽データが壊れることがあります。

- マルチクレードルの[⏏, EJECT]を押して本機を取り外す
- USBケーブルを抜く
- 充電式電池を抜いたり、ACアダプターを抜く

■BeatJamやBeatStreamをアンインストール（削除）するには

BeatJam取扱説明書の12ページをご覧ください。（Net MD USBドライバーは削除されません。）

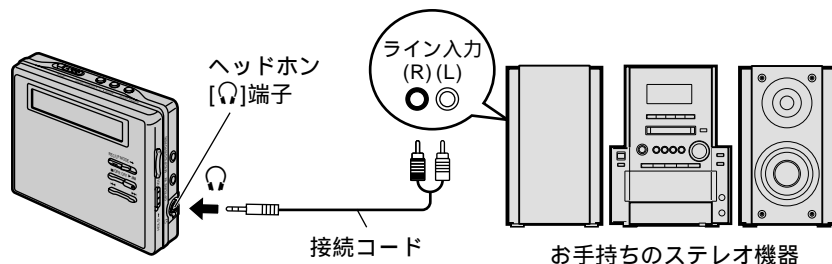
他の機器と組み合わせて使う

● 接続する機器の説明書をあわせてご覧ください。
● 本製品を正しく動作させるために、別売り品は必ず当社指定のものをお使いください。当社指定以外のものをお使いになると、故障の原因になります。

ステレオ機器と接続する

本機の再生音を、ステレオ機器で聞いたり、録音したりすることができます。

下記の別売り品をお買い求めください

●接続コード
ステレオ機器側がライン入力端子の場合： RP-CAPM3G15、1.5 m
ステレオ機器側がミニホンジャックの場合： RP-CAM3G15、1.5 m

お知らせ

● ステレオ機器へは、必ず入力端子に接続してください。誤って出力端子に接続すると、本機が故障するおそれがあります。
● 音質の設定は、**NORMAL**（解除）にしてください。（➠ 34 ページ）
● 本機の音量レベルは 20 ～ 23 に設定してください。

別売り品の紹介

別売り品の品番は、2002 年 5 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

■接続コード

アナログ

●RP-CAPM3G15
ステレオミニプラグ⇔ピンプラグ
長さ：1.5 m
●RP-CAM3G15
ステレオミニプラグ⇔ステレオミニプラグ
長さ：1.5 m

光デジタル

●RP-CA2110A
光角形プラグ⇔光ミニプラグ
長さ：1m
●RP-CA2210A
光ミニプラグ⇔光ミニプラグ
長さ：1m

■ステレオインサイドホン

RP-HJ337
RP-HJ237

■ステレオマイク

RP-VC200（プラグインパワー方式）
RP-VC300

■ニッケル水素充電式電池

HHF-1PSC/1B
HHF-AZ01S/1B

使用上のお願い

■本体

以下のことは故障の原因となりますので、避けてください。

● 強い衝撃や落下
● 雨に濡らす
● 風呂場など湿気が多いところでの使用
● 倉庫などほこりが多いところでの使用
● 暖房器具の近くなど温度が高いところでの使用

■ステレオインサイドホン

本体に巻き付けるときは、コードにたるみを持たせてゆるく巻いてください。

■お手入れ

本体が汚れたら
柔らかい布でふいてください。

ひどい汚れは、薄めた台所用洗剤（中性）を含ませた布でふき、後は、からぶきしてください。
推奨品：クリーニングクロス（VUA7091）
（サービスルート扱い）

● アルコールやシンナーは使わないでください。
● 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

良い音でお楽しみいただくために

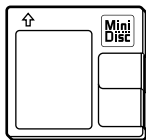
別売りの専用クリーナーで時々清掃されることをおすすめします。
推奨品：MD レンズクリーナー
（品番：RP-CL310）
MD 録音ヘッドクリーナー
（品番：RP-CL320）

MD について

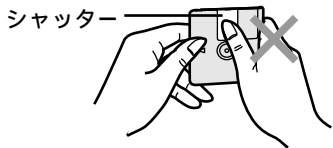
MD の種類

再生専用 MD

ピットという小さなくぼみの有無でデータが記録されています。CD と同様の、この方式の MD を「光ディスク」といいます。

録音用 MD

磁気によってデータが記録されます。この方式の MD を「光磁気ディスク」といいます。

取扱上のお願い

- 指定外の場所にラベルを貼らない
  (また、ラベルやテープの糊がはみ出したり、はがしたあとのある MD は、故障の原因になりますので、機器に入れないでください。)
- シャッターは開けない

(万一開いてしまったときは、すぐに閉じてください。中の円盤には直接手を触れないでください。)

MD の用語解説

■トラックマーク

録音部分に記録される「区切り」のことです。ある区切りから次の区切りまでが 1 曲と数えられます。本機では次のような方法でトラックマークをつけることができます。

オートマークモード

レコーダー自体が自動的に曲の変わり目を判断して、トラックマークをつけていきます。

マニュアルマークモード

お好みの場所に、手動でトラックマークをつけることができます。

タイムマークモード

ある一定時間の間隔でトラックマークを自動的につけることができます。(会議などをこの方法でマイクを使って録音すると、一定時間の間隔で頭出しができます。)

■ TOC(トック)(Table of Contents)

音楽信号とは別に、MD に記録されている情報のこと。曲数、総再生時間、MD のタイトル、曲名などをいいます。

■ UTOC(ユートック)(User Table of Contents)

使用者の利用状況に応じて書き込まれたり、置き換えられたりする TOC 情報のこと。MD の編集結果や、タイトル、曲名などの UTOC 情報が MD に書き込まれるとき、本機は“ UTOC Writing ”と表示して注意を促します。

MD の録音・編集について

■ MD の録音方式

デジタル接続

CD、MD などのデジタル機器（光出力端子のある機器）をデジタル接続したときの録音

デジタル信号をそのままデジタルで録音します。ただしこの録音には SCMS という制限があります。(右記参照)

アナログ接続

①CD、MD などのデジタル機器をアナログ接続したときの録音

デジタル信号 # アナログ信号 # デジタル信号と順に変換して録音します。

②ラジオやテープなどアナログ機器の録音

アナログ信号をデジタル信号に変換して録音します。

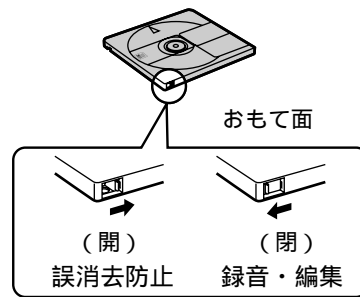
録音をお楽しみいただくには、デジタル、アナログそれぞれの接続方式専用の接続コードをお買い求めください。(➟ 18、19 ページ)

■デジタル録音の制限について (SCMS)

デジタル録音には、SCMS（シリアル・コピー・マネージメント・システム）という制限があります。光デジタルケーブルを使って他のデジタル機器から本機に録音すると、信号劣化の少ないクリアなデジタル録音が行なえます。そこで著作権保護のため、この MD からさらに別の MD にはデジタル録音できないようになっています。

なおアナログ録音には、このようなしくみはありません。

■大切な録音を消さないために

誤消去防止つまみを、穴が開く方向にずらします。(新たに録音、編集するときは閉じてください。)

著作権について

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれております。
お問合せ先：
（社）私的録音補償金管理協会
ｉ 03－5353－0336

■著作権について

- 放送やレコードその他の録音物（ミュージックテープ、カラオケテープなど）の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。
- 従って、それらから録音したMDやテープを売ったり、配ったり、譲ったり、貸したりする場合、および営利（店のBGMなど）のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。
- 使用条件は、場合によって異なりますので、詳しい内容や申請、その他手続きについては、「日本音楽著作権協会」（JASRAC）の本部または最寄りの支部にお尋ねください。

日本音楽著作権協会

本部
ｉ（03）3481-2121
北海道支部
ｉ（011）221-5088
盛岡支部
ｉ（019）652-3201
仙台支部
ｉ（022）264-2266
長野支部
ｉ（026）225-7111
大宮支部
ｉ（048）643-5461
上野支部
ｉ（03）3832-1033
東京支部
ｉ（03）3562-4455
西東京支部
ｉ（03）3232-8301
東京イベントコンサート支部
ｉ（03）5286-1671
立川支部
ｉ（042）529-1500
横浜支部
ｉ（045）662-6551
静岡支部
ｉ（054）254-2621
中部支部
ｉ（052）583-7590
北陸支部
ｉ（076）221-3602
京都支部
ｉ（075）251-0134
大阪支部
ｉ（06）6244-0351
神戸支部
ｉ（078）322-0561
中国支部
ｉ（082）249-6362
四国支部
ｉ（087）821-9191
九州支部
ｉ（092）441-2285
鹿児島支部
ｉ（099）224-6211
那覇支部
ｉ（098）863-1228

MDのシステム上の制約

MDは、カセットテープやDATとは異なる方式で録音が行われます。この方式には、いくつかの制約があるため、次のような症状が出る場合があります。これらは、故障ではありません。

こんなときは	このような制約が
ディスクの最大録音時間に満たないのに、“UTOC FULL”が表示される。	録音時間に関係なく、254曲まで録音すると、それ以上録音できません。
曲数や録音時間が最大ではないのに、“DISC FULL”が表示される。	録音、編集をくり返したMDや、MDに傷がある場合、録音できなくなることがあります。
編集で、曲と曲がつなげない場合がある。	録音、編集をくり返したMDや、録音モード（通常、モノラル、LP2、LP4）が異なる曲どうしではコンバインできません。
曲を消しても残り時間が増えない。	MDの録音残り時間を表示するとき、12秒以下の部分は無視されます。このため短い曲を何曲消しても録音時間が増えないことがあります。
早送り、早戻しをすると、音が途切れることがある。	録音、編集をくり返したMDに録音すると、1つの曲が分断されて記憶されることがあるため、このようなことが起こります。
録音した時間と残り時間を足しても、ディスクの最大録音可能時間にならない。	MDは2秒以下の音声を録音するにも、約2秒間のディスク領域を使うため、表示される残り時間より、実際に録音できる時間が少なくなることがあります。

故障かな！？

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

こんなとき	ここをチェック	処置	参照ページ
操作できない	ホールド状態になっていませんか。	ホールド状態を解除する。	16
	ディスクが入っていますか。	ディスクを入れる。	17
	AC アダプターが正しく接続されていますか。	AC アダプターを接続し直す。	13
	電池が消耗していませんか。	充電する。または乾電池を交換する。	13、15
	損傷しているディスクが入っていませんか。	別のディスクに取り替える。	—
再生できない	録音したディスクが入っていますか。	曲の入っているディスクに取り替える。	—
1曲目から再生できない	再生モードがランダムになっていませんか。	ランダム再生モードを解除する。	36
	グループモードになっていませんか。	グループモードを解除する。	35
録音や編集ができない	再生専用ディスクが入っていませんか。	録音用ディスクに取り替える。	—
	ディスクが誤消去防止状態になっていませんか。	ディスクの誤消去防止つまみを閉じる。	67
	他の機器と正しく接続されていますか。	正しく接続し直す。	18～19
	外部機器の光出力から信号が出ていますか。	外部機器の取扱説明書を読んでください。	—
スピーカーから音が出ない	充電式電池だけで使用していませんか。	AC アダプターも接続してください。電池だけでは音が出ません。	16、30
インサイドホンから音が出ない 雑音がする	音量が最小になっていませんか。	音量を調節する。	29
	インサイドホン、リモコンのプラグは奥まで入っていますか。	一度抜いて、再度差し込む。	29
	プラグが汚れていませんか。	プラグをきれいにふく。	—
	本機と携帯電話を近づけて使っていませんか。	本機から携帯電話を離す。	—
ディスク名、曲名が途切れたり、表示されない	ディスクに記録できる文字数を超えていませんか。	文字数の少ない名前につけ直す。	50～53
本体のふたが開かない	電池が消耗したり、AC アダプターの接続が外れていませんか。	新しい電池に取り替える。または、AC アダプターを正しく接続する。	13～15
	パソコンと接続中（Net MD の状態）になっていませんか。	マルチクレードルの[ENTER, USB ON/OFF]を押して、Net MD を終了する。	61～63
イントロスキャンメモリー再生ができない	グループモードになっていませんか。（グループモードではできません。）	リモコンの［PLAY MODE］を長押しして、ディスクモードにする。	35
本体をマルチクレードルに取り付けると動かない	本体に充電式電池が入っていますか。	本体に、充電式電池を入れる。AC アダプターだけでは動きません。	14
	本体がマルチクレードルに正しく取り付けられていますか。	正しく取り付ける。	13
	本体のクレードルとの接続端子が汚れていませんか。	接続端子の汚れをきれいにふく。	—

故障かな！？（つづき）

こんなとき	ここをチェック	処置	参照ページ
パソコンに接続しているのに動かない	本機がパソコンに認識されていますか。	以下を確認してください。 ①USBケーブルが正しく接続されているか ②必要なアプリケーションソフトとドライバーがインストールされているか ③本体がマルチクレードルに正しく取り付けられているか ④マルチクレードルの[ENTER, USB ON/OFF]を押して、“Net MD”が表示されるか	58 57～60 13 61～63
音が途切れる。パソコンの画面がかたまる。	音楽再生用ソフト以外のソフトを開いていませんか。	音楽再生用ソフト以外のソフトを閉じる。	—
Net MDで録音中に音が出ない。	チェックアウト中は再生音が聞こえません。	録音終了後MDを再生して曲を確認する。	—
付属アプリケーションソフトBeatJamをインストールできない。	ご使用のパソコンはBeatJamの使用に必要な環境を満たしていますか。	BeatJamは必要な環境を満たしたWindows OSのパソコンでのみ使用できます。詳しくはBeatJamの取扱説明書をご覧ください。	—

Q&A（よくあるご質問）

Q（質問）	A（回答）	参照ページ
録音した曲に上書きで録音したい。	上書き録音はできません。MDの録音残り時間が少ない場合はイレース機能で不要な曲を消してから録音してください。	44
一度録音したMDに追加で録音したい。	自動的に前の録音部分の続きから録音しますので、そのまま録音してください。	21
録音中に、音量を変えたらどうなる？	録音中に音量を調節しても、録音される音には影響しません。	—
ステレオ／モノラル／MDLP再生はどうやって切り換えるの？	録音された状態によって、自動的に切り換わります。	28
MDLP長時間録音されたMDはどの機種でも再生できるの？	MDLPに対応していない機種では再生できません。曲のタイトルの頭に“LP:”と表示され無音状態になります。	—
スピーカーにL、Rの表示が無いのですが？	付属のスピーカーにはL（左）R（右）の区別はありません。左に置いたほうをL端子に、右に置いたほうをR端子に、接続してください。	16
漢字とひらがなは入力できるの？	本機では漢字、ひらがな（全角文字領域）の入力はできません。付属のアプリケーションソフトBeatJamを使って入力してください。	—
パソコンから録音するときに，MDLP長時間録音はできるの？	BeatJamで設定できます。“LP”を選び、曲のビットレートで132 kbps/105 kbpsを選ぶとLP2で、66 kbpsを選ぶとLP4で録音されます。“SP”を選ぶと通常ステレオ録音になります。	61

こんな表示が出たら

表示	意味	処置
BLANK DISC [BLANK]	ディスクに音楽や文字情報が記録されていません。	再生するときは、録音済みのディスクに取り替えてください。
Can't COMBINE	コンバインできない曲をまとめようとしました。	MD のシステム上の制約です。
Can't COPY (SCMS)	デジタル入力録音でコピーのコピーは作れません。	アナログ入力を使って録音してください。
Can't DIVIDE	ディバイドできない曲を分けようとしました。	MD のシステム上の制約です。
Can't EDIT [ERROR]	①タイトルのコピー（タイトルステーション）ができません。②グループ編集ができません。	①コピーできる条件を満たしているディスクを入れてください。②グループの状態を確認して再度実行してください。
DIGITAL UNLOCK	デジタル（光）入力端子につながずに録音しようとしました。	オプティカルデジタルケーブルの接続を確認してください。また、録音もとの機器の電源が、ON になっているか確認してください。
DISC FULL [FULL]	MD に録音できる空きがありません。	不要な曲を消すか、他の MD に取り替えてください。
DISC PROTECT	MD が誤消去防止状態になっています。	MD の誤消去防止つまみを閉じた状態にしてください。
EMERGENCY STOP	録音中に異常が発生しました。	MD を入れ直してください。
F17	磁気ヘッドに異常があります。	販売店に、ご相談ください。
GROUP DATA FULL	グループ管理データを更新する領域がありません。	グループを解除するか、グループタイトルを削除してください。
HOLD	HOLD 状態になっています。	HOLD 状態を解除してください。
LOW BATTERY U01 [U01]	充電式電池や乾電池の残量が無くなりました。	充電するか、乾電池を交換してください。

[　　]内は、リモコンの表示です。

表示	意味	処置
NO BATTERY [NO BAT]	本体に充電式電池を入れずにマルチクレードルに取り付けました。	充電式電池を入れてください。
NO DISC [NoDISC]	MD が入っていません。	MD を入れてください。（入れても表示される場合は販売店にご相談ください。）
PLAYBACK DISC [ERROR]	再生専用 MD を録音・編集しようとしました。	録音用 MD に取り替えてください。
SYSTEM ERROR [ERROR]	自己診断により故障と判断しました。	お買い上げの販売店にご相談ください。
TOC ERROR [ERROR]	MD に異常があるか、損傷しています。	オールイレース機能で全曲消すか、MD を取り替えてください。
TOC Reading [T-READ]	MD の情報を読み込み中です。	―――
TrackNO NOT SAME	読み込んだタイトル数と、コピー先 MD の曲数が異なります。	タイトルと曲の数を同じにしてコピーしてください。
TITLE FULL [ERROR]	入力しているタイトルが規定の文字数を超えています。	入力可能な文字数で入力してください。（➠ 51 ページ）
TITLE OVER [ERROR]	既に 101 文字以上入力されているタイトルを編集しようとしている。	編集を続けると 101 文字以降は自動的に削除されます。
TRACK PROTECT	曲にプロテクト（保護）がかかっています。	編集・消去していいか確認してから操作してください。
	パソコンからチェックアウトした曲を編集しようとしました。	パソコンからチェックアウトした曲を編集すると、パソコンにチェックインできなくなります。
UTOC FULL [FULL]	録音曲数が最大（254 曲）になっているので録音できません。	不要な曲を消すか、新しい録音用 MD に取り替えてください。
	録音曲数は最大ではありませんが、MD のシステム上の制約で録音できません。	
	タイトルを書き込めるだけの領域がありません。	
UTOC Writing [WRITE]	UTOC に書き込んでいます。	―――

保証とアフターサービス

（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は…

- 修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
- その他のお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■保証書（裏表紙をご覧ください）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間 ：お買い上げ日から本体１年間

■補修用性能部品の保有期間

当社は、ポータブル MD レコーダーの補修用性能部品を、製造打ち切り後 8 年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

７０ページの「故障かな!?」の表に従ってご確認のあと、直らないときは、まず AC アダプターを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

- **保証期間中は**
  保証書の規定に従って、お買い上げの販売店が修理させていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書を添えてご持参ください。
- **保証期間を過ぎているときは**
  修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。
- **修理料金の仕組み**
  修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料	は、診断、故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
部品代	は、修理に使用した部品および補助材料代です。
出張料	は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容			
品名	ポータブル MD レコーダー	お買い上げ日	年　月　日
品番	SJ-MR250	故障の状況	できるだけ具体的に

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル／パナソニック　お客様ご相談センター

電話　フリーダイヤル **0120-878-365**（パナは 365日）
FAX　フリーダイヤル **0120-878-236**

３６５日／受付９時～２０時

Help desk for foreign residents in Japan
〈外国人／海外仕様商品（ツーリスト商品他）等ご相談窓口〉
Tokyo (03) 3256-5444　**Osaka** (06) 6645-8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

修理に関するご相談

ナショナル／パナソニック　修 理 ご 相 談 窓 口

ナビダイヤル（全国共通番号）　0570-087-087

- お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・ＰＨＳ等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。
- 最寄りの修理ご相談窓口は、以下をご覧ください。

北 海 道 地 区					
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7 ☎(011)894-1251	**帯広**	帯広市西１９条南１丁目7-11 ☎(0155)33-8477	**函館**	函館市西桔梗５８９番地２４１(函館流通卸センター内) ☎(0138)48-6631
旭川	旭川市2条通21丁目左1号 ☎(0166)31-6151				

東 北 地 区					
青森	青森市第二問屋町3-7-10 ☎(017)739-9712	**岩手**	盛岡市羽場１３地割３０-３ ☎(019)639-5120	**山形**	山形市流通センター３丁目12-2 ☎(023)641-8100
秋田	秋田市御所野湯本2丁目1-2 ☎(018)826-1600	**宮城**	仙台市宮城野区扇町7-4-18 ☎(022)387-1117	**福島**	福島県安達郡本宮町字南ノ内６５ ☎(0243)34-1301

ナショナル／パナソニック 修理ご相談窓口

首都圏地区

栃木 宇都宮市御幸町194-20 ☎(028)689-2555	**埼玉** 桶川市赤堀2丁目4-2 ☎(048)728-8960	**山梨** 甲府市下飯田2丁目1-27 ☎(055)222-5171
群馬 高崎市大沢町229-1 ☎(027)352-1109	**千葉** 千葉市中央区星久喜町172 ☎(043)208-6034	**神奈川** 横浜市港南区日野5丁目3-16 ☎(045)847-9720
水戸 水戸市柳河町309-2 ☎(029)225-0249	**東京** 東京都世田谷区宮坂2丁目26-17 ☎(03)5477-9780	**新潟** 新潟市東明1丁目8-14 ☎(025)286-0171
つくば つくば市花畑2丁目8-1 ☎(0298)64-8756		

中部地区

石川 石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80 ☎(076)294-2683	**長野** 松本市大字笹賀7600-7 ☎(0263)58-0073	**岡崎** 岡崎市岡町南久保28 ☎(0564)55-5719
富山 富山市寺島1298 ☎(076)432-8705	**静岡** 静岡市西島765 ☎(054)287-9000	**岐阜** 岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30 ☎(058)323-6010
福井 福井市開発4丁目112 ☎(0776)54-5606	**名古屋** 名古屋市瑞穂区塩入町8-10 ☎(052)819-0225	**高山** 高山市花岡町3丁目82 ☎(0577)33-0613
		三重 久居市森町字北谷1920-3 ☎(059)255-1380

近畿地区

滋賀 守山市勝部6丁目2-1 ☎(077)582-5021	**大阪** 大阪市北区本庄西1丁目1-7 ☎(06)6359-6225	**和歌山** 和歌山市中島499-1 ☎(073)475-2984
京都 京都市南区上鳥羽石橋町20-1 ☎(075)672-9636	**奈良** 大和郡山市椎木町404-2 ☎(0743)59-2770	**兵庫** 神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6 ☎(078)272-6645

ナショナル／パナソニック 修理ご相談窓口

中国地区

鳥取 鳥取市安長295-1 ☎(0857)26-9695	**出雲** 出雲市渡橋町416 ☎(0853)21-3133	**広島** 広島市西区南観音8丁目13-20 ☎(082)295-5011
米子 米子市米原4丁目2-33 ☎(0859)34-2129	**浜田** 浜田市下府町327-93 ☎(0855)22-6629	**山口** 山口市鋳銭司字鋳銭司団地北447-23 ☎(083)986-4050
松江 松江市平成町182番地14 ☎(0852)23-1128	**岡山** 岡山県都窪郡早島町矢尾807 ☎(086)292-1162	

四国地区

香川 高松市勅使町152-2 ☎(087)868-9477	**高知** 南国市岡豊町中島331-1 ☎(088)866-3142	**愛媛** 松山市土居田町750-2 ☎(089)971-2144
徳島 徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108 ☎(088)698-1125		

九州地区

福岡 春日市春日公園3丁目48 ☎(092)593-9036	**大分** 大分市萩原4丁目8-35 ☎(097)556-3815	**天草** 本渡市港町18-11 ☎(0969)22-3125
佐賀 佐賀市本庄町大字本庄896-2 ☎(0952)26-9151	**宮崎** 宮崎県宮崎郡清武町下加納366-2 ☎(0985)85-6530	**鹿児島** 鹿児島市与次郎1丁目5-33 ☎(099)250-5657
長崎 長崎市東町1949-1 ☎(095)830-1658	**熊本** 熊本市健軍本町12-3 ☎(096)367-6067	**大島** 名瀬市矢之脇町10-5 ☎(0997)53-5101

沖縄地区

沖縄 浦添市城間4丁目23-11 ☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0102

Operating Instructions

Supplied Accessories

Refer to the illustration on page 9 of the Japanese text.

- **Stereo earphones**
- **Wired remote control**
- **Nickel-metal hydride rechargeable battery**
- **External battery case**
- **Carrying case**
- **AC adaptor**
- **Multi cradle**
- **Speakers**
- **USB cable**
- **Net MD Software**

Location of Controls

Refer to the illustrations on pages 10 to 12 of the Japanese text.

■Main unit

① **Display**
② **Open switch (OPEN)**
③ **Tone/recording sensitivity button (EQ/REC SENS)**
④ **Play and record mode Japanese syllabary/ Chinese character select button (MODE)**
⑤ **Track mark mode button (MARK MODE)**
⑥ **Volume buttons (VOL , −, +)**
⑦ **Microphone jack [MIC (PLUG IN POWER)]**
⑧ **Optical digital in/line in jack (OPT/LINE IN)**
⑨ **Headphone jack (🎧)**
⑩ **Hold switch (HOLD→)**
⑪ **Play/record/pause/power on button (▶/❚❚)**
⑫ **Recording level control, skip/search buttons (|◀◀, ▶▶|)**
⑬ **Stop/operation off button (■/OPR OFF)**
⑭ **Recording pause/power on/LP recording switch (REC/LP MODE→)**
⑮ **Rechargeable battery compartment cover (◀ OPEN)**
⑯ **Multi cradle connection terminal**
⑰ **Connection terminal for battery case**

■Multi cradle

① **Eject button (⏏, EJECT)**
② **Edited contents set, Net MD start up button (ENTER, USB ON/OFF)**
③ **Character delete button (DELETE)**
④ **Entering/canceling editing mode button (EDIT)**
⑤ **Main body attachment hook**
⑥ **Main body attachment terminal**
⑦ **Numbers/characters buttons**
⑧ **Character type button (CHARA)**
⑨ **Space or symbol button (SPACE)**
⑩ **Volume control, edit menu select, track number select, cursor movement buttons (←−, +→, VOL/CURSOR)**
⑪ **DC IN jack (DC IN 4.5 V ⊖-⊙-⊕)**
⑫ **USB terminal**
⑬ **Speakers (8 Ω), R/L**

■Main unit display

① **Battery indicator**
② **Group mode indicator**
③ **Recording indicator**
④ **LP recording indicator**
⑤ **Synchronized recording indicator**
⑥ **Remaining recording/playing time indicator**
⑦ **Track number, Time display**
⑧ **Level meter**
⑨ **Disc mark**
⑩ **Text**
⑪ **Sound quality indicators**
⑫ **Play mode indicators**

■Remote control

① **Display**
② **Hold switch (HOLD ▶)**
③ **Skip/search buttons (|◀◀, ▶▶|)**
④ **Volume buttons (+, −)**
⑤ **Play/record/stop button (▶/■)**
⑥ **Earphone jack**
⑦ **Clip**
⑧ **Light/display button (•LIGHT/ ▬ DISP)**
⑨ **Play mode button (PLAY MODE)**
⑩ **Track mark/tone control button (T.MARK/EQ)**
⑪ **Plug**

■Remote control display

① **Text**
② **Group mode indicator**
③ **Recording indicator**
④ **Battery indicator**
⑤ **Play mode indicator**
⑥ **Sound quality indicators**
⑦ **Disc mark**
⑧ **Track number**

■Stereo earphones

① **Plug**
② **Slider**
Slide up to prevent tangling the cord when the earphones are not in use.

Power Supply

Refer to the illustrations on pages 13 to 15 of the Japanese text.

The rechargeable battery

1 Put the battery into the unit.
2 Install the unit to the multi cradle.
3 Connect the AC adaptor to the multi cradle.

Recharging begins.
“CHARGE” appears on the display while recharging.
“CHARGE” disappears when the battery is fully charged. It takes approximately 3.5 hours to recharge the supplied battery.

■When recharging is over

Disconnect the AC adaptor from the [DC IN 4.5 V ⊖-⊙-⊕] terminal and the AC outlet.

Note

Use only the supplied AC adaptor. Use of other adaptors can damage the unit.

■To remove the main unit from the multi cradle

Press [⏏, EJECT].

Be sure there is a rechargeable battery in the unit when you use the unit installed on the multi cradle. The unit will not run off the AC mains without a battery. If you install the unit on the multi cradle without inserting the battery, “NO BATTERY” will be displayed.

■Recharging time and duration

(When using the supplied battery.)
Charging : Approx. 3.5 hours
Play time
Normal stereo mode : Approx. 25 hours
LP2 stereo mode : Approx. 33 hours
LP4 stereo mode : Approx. 40 hours
Recording time
Normal stereo mode : Approx. 13 hours
LP2 stereo mode : Approx. 17 hours
LP4 stereo mode : Approx. 21 hours

- Duration may be reduced under some conditions.
- If the unit is to be used for long periods, such as during recording, use the AC adaptor to power it.

■Rechargeable number of times

The battery can be recharged approx. 300 times. The battery has reached the end of its lifetime once play time is dramatically reduced even after full recharging.

■Replacement

Nickel-metal hydride rechargeable battery (HHF-1PSC/1B, HHF-AZ01S/1B).

Note

- If the unit is not to be used for a long time disconnect the AC adaptor from the AC outlet and turn the unit off to save power.
- If using the unit while it is installed on the multi cradle, ensure that it is aligned correctly, and that it is not forced into position or subjected to violent treatment.
- The unit cannot recharge batteries other than the one supplied or recommended replacements.
- It is not necessary to completely discharge Panasonic’s nickel-metal hydride rechargeable batteries before recharging them.
- The unit can only be recharged while it is off.
- If “CHARGE” does not appear, disconnect the AC adaptor from [DC IN 4.5 V ⊖-⊙-⊕] , then reconnect it.
- The AC adaptor and battery may become warm during recharging but this is normal.
- When using for the first time in a long time you may find that the batteries do not recharge to the original level. If you repeat the charging/depleting process the batteries will return to normal.

Dry cell battery (not included)

Use one LR6 alkaline battery. Use long -life Panasonic alkaline batteries.

1 Put the battery into the battery case.
2 Attach the case to the unit.

■For longer use

Use the two types of batteries at the same time.

The battery indicator

The indicator flashes when the battery is almost flat. Recharge or replace the battery.

Note

- The unit may make some noise when the AC adaptor is connected to the multi cradle with the unit installed or when batteries are first installed. This is normal.
- When recording, we recommend that you place the unit WITH BATTERY INSERTED on the multi cradle and connect the AC mains.
- Always use rechargeable batteries in combination with normal dry cell batteries to avoid fast depletion of the dry cell batteries and to safeguard against loss of power partway through recording.

Operating Instructions

Setting the speakers

Refer to the illustration on page 16 of the Japanese text.

Attaching speakers to the multi cradle

There is no differentiation made between the speakers regarding left and right. Just connect the speaker you place on the left to the terminal on the left and similarly for the speaker on the right.

Note

- Make sure that there is a rechargeable battery in the unit before you place it on the multi cradle and connect the AC mains. No sound will be produced from the speakers if you are using only a battery.
- Do not connect speakers other than those provided. Also, do not connect the speakers provided to other equipment.
- Speakers are easily affected by magnetic fields so avoid placing cash cards and travel cards nearby.

The HOLD Function

Refer to the illustration on page 16 of the Japanese text.

This function stops the unit and remote control from responding when a button is pressed.

Guards against the following

- The unit is powered on accidentally when not in use, causing the batteries to run down.
- A button is accidentally pressed during play or recording, interrupting the operation.

There is a HOLD switch on both the unit and remote control, each of which works independent of the other.

■The “HOLD” display

This is displayed for a few seconds on the main unit's and the remote control's display panels when the following occurs.

- The main unit is on hold and a button is pressed. (When off, display appears only if [▶/❚❚] or [REC/LP MODE →] is operated.)
- The remote control's switch is moved to hold.

Insert an MD

Refer to the illustration on page 17 of the Japanese text.

① **Slide [OPEN] in the direction of the arrow to open the lid.**
② **Slide the MD between the guides so it clicks into place.**
③ **Now close the lid.**

The unit will come on and read the information after you insert the MD. If no operation is carried out for a minute the unit turns itself off automatically.
The title of the disc and song is shown. The title scrolls if it can not be displayed all at once. “BLANK DISC” is displayed when you insert a blank MD.

Removing the disc

Slide [OPEN] in the direction of the arrow and the disc springs out from the unit.

Basic recording

Refer to the illustrations on pages 20 to 24 of the Japanese text.

Preparation

- Release HOLD.
- Insert the rechargeable battery into the unit.
- Insert a recordable MD.

1 DIGITAL
Connect this unit to a unit that has a digital output terminal.

ANALOG
Connect this unit to a unit that has stereo LINE OUT terminals.
- Connect while the unit is stopped.
- Do not connect anything to [MIC (PLUG IN POWER)] when analog recording.

2 Slide [REC/LP MODE →] to the right.
The unit comes on and enters the recording standby mode.
To record at the correct volume
Adjust the recording sensitivity to suit the equipment you have connected. (See page 85.)

3 Slide again [REC/LP MODE →] to select the recording mode.
The mode changes each time you slide the button.

LP2 : LP2 stereo mode (----------------------]
;
LP4 : LP4 stereo mode
;
No indication : Normal stereo mode ----------}

The recording times for each mode are as follows when you use an 80-minute MD.
LP2 stereo mode : Max.160 minutes
LP4 stereo mode : Max.320 minutes

4 ❶ **Press [▶/❚❚] to start recording.**
❷ **Begin playback of the source.**
If you have inserted an MD with recordings already on it, recording starts from the first available space.

■To pause recording

Press [▶/❚❚]. (The number of tracks increases by one.)
Recording restarts when pressed again.

■To stop recording

Press [■/OPR OFF].
(UTOC is recorded.)
- The unit powers itself off automatically in about a minute.
- You can turn off the unit by pressing again [■/OPR OFF] on the main unit while stopped.

■Making good recordings

- It is best to run the unit off the AC mains as much as circumstances of use permit. The unit should always have a rechargeable battery on board when being run off the AC mains.
- Do not press [⏏, EJECT] on the multi cradle while recording.
- Do not open the lid or shake the unit while recording. Be especially careful while “UTOC Writing” is on the display . If the unit is moved at this time, the recording may not be correctly recorded onto the disc.
- You can damage the unit or disc if you try to force open the lid.

■High quality recording

You can take advantage of the unit’s High Density Encoding System (HDES) when using normal stereo mode for recording, whichever input mode you choose to use; digital, analog, or microphone.
HDES does not function when you use MD**LP** modes. “HDES” appears on the unit’s display when you put the unit in the recording standby mode.

Synchronized recording

Synchronized recording
This method starts and stops recording at the same time as the source being recorded.

One track synchronized recording
The first track on a CD is recorded and then the unit goes to recording standby mode. This is a convenient mode if you want to record the first track off a number of single CDs.

Preparation

- Release HOLD.
- Insert the rechargeable battery into the unit.
- Insert a recordable MD.

1 Connect this unit to other equipment.
2 Slide [REC/LP MODE→] to the right.
Slide again the switch to select LP2/LP4.
3 Press [MODE] to select the recording mode.
Each time the button is pressed

DIGITAL
SYNC > **SYNC 1** > Normal (No display)
^_ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _}

ANALOG
SYNC > Normal (No display)
^_ _ _ _ _}

Note

If you have set the recording mode to “SYNC”, recording begins immediately if the source, for example the radio, you are recording is already playing.

4 Begin playback of the source.
Recording begins automatically.

■To pause recording

If you have selected
- **Synchronized recording (SYNC)**
This unit automatically pauses if the source is stopped or if 2 seconds of silence when analog recording, 7 seconds of silence when digital recording is detected. (The number of tracks increases by one.)
- **One track synchronized recording (SYNC 1)**
The unit automatically pauses after the first track finishes.(The number of tracks increases by one.)

Recording restarts as follows
- **Synchronized recording (SYNC)**
When sound is input again
- **One track synchronized recording (SYNC 1)**
When you change the CD and play track 1

■To stop recording

Press [■/OPR OFF].
(UTOC is recorded.)
- The unit powers itself off automatically in about a minute.
- You can turn off the unit by pressing again [■/OPR OFF] on the main unit while stopped.

Note

- One track synchronized recording does not function in the following cases:
①When you start CD play from track 2 or later.
②When the first track on a CD is not numbered 1 (on the second of a set of two CDs, for example).
- You cannot pause recording manually during synchronized and one track synchronized recording.
- You cannot use synchronized recording when using a microphone.
- The beginnings of tracks may be cut-off when you use synchronized recording. Use normal recording if this occurs.

■Putting track marks
Track marks are put automatically as follows.
DIGITAL
When recording from a CD or MD
The track marks are put onto the MD corresponding to the tracks on the other disc. (Track marks may not correspond to track numbers with some discs.)
When recording from other digital sources
2 seconds of silence is determined as the division between two tracks and a track mark is added.
ANALOG
2 seconds of silence is determined as the division between two tracks and a track mark is added.

Note
Track marks will not be added if the space between tracks is short or if there is noise in the space. Track marks may be added in error if there is a silent or especially quiet portion in a track. Use the editing functions after recording to add and remove track marks. (See pages 90 to 91.)

■Connecting digital equipment
- Use an AC adaptor to power a portable CD player and turn off its anti-skip function.
- This unit has a sampling rate converter that functions automatically, so you can make digital recordings from equipment with different sampling rates, such as satellite receivers and DAT decks.

■Note for long play recording
- You can record using normal stereo, LP2 stereo, and LP4 stereo on the same disc.
- “LP:” is added to the beginning of titles recorded with LP2 or LP4 but this is not displayed on this unit.
- LP4 mode uses a special compression method in order to achieve extended recording and this may rarely cause some noise when recording some material. Use standard stereo or LP2 mode for better sound quality.
- The mode reverts to normal stereo recording when you replace the battery or unplug the AC adaptor.

Recording from a microphone

Refer to the illustration on page 25 of the Japanese text.

Preparation
- Release HOLD.
- Insert the rechargeable battery into the unit.
- Insert a recordable MD.

1 Connect the microphone.
- Connect while the unit is stopped.
- Do not connect anything to [OPT/LINE IN].
- Keep the microphone away from the unit to avoid recording sounds from it.
- If howling occurs while you are using earphones, separate the microphone and earphones or reduce the volume.

2 Slide [REC/LP MODE →] to the right.
Slide again the switch to select LP2/LP4 mode.

3 ❶ Press [▶/❚❚] to start recording.
❷ Face the microphone towards the source of the sound.

■To pause recording
Press [▶/❚❚]. (The number of tracks increases by one.)
Recording restarts when pressed again.

■To stop recording
Press [■/OPR OFF].
(UTOC is recorded.)
- The unit powers itself off automatically in about a minute.
- You can turn off the unit by pressing again [■/OPR OFF] on the main unit while stopped.

■Track marks
Add track marks manually or have the unit add them at selected intervals.
(See next page.)

■For stereo recording
Purchase a stereo microphone, part number RP-VC200 or RP-VC300.

Other recording functions

Refer to the illustrations on pages 26 and 27 of the Japanese text.

Ways of adding track marks
Apart from auto marking where the unit automatically adds the track marks during recording, there are also the manual and auto time marking methods.

Press [MARK MODE] while the unit is in the recording standby mode to select the required marking method.
The mode changes each time the button is pressed.

AUTO
Track marks are added automatically when the tracks change.
↓
MANUAL
Track marks can be added manually where required.
↓
3MIN
Track marks are inserted at 3 minute intervals.
↓
5MIN
Track marks are inserted at 5 minute intervals.
↓
10MIN
Track marks are inserted at 10 minute intervals.

Note
“AUTO” cannot be selected when recording with a microphone.

■To add track marks manually
Main unit
Press [MARK MODE] when a track mark is required during recording.
Remote control
Press [T.MARK/EQ] during recording.

Note
Track marks are added manually even if “ MANUAL ” has not been selected.

Checking the remaining time on the MD
This function allows you to check the time available for recording while in recording standby mode or in progress.
Remote control only
Press and hold [• LIGHT/ ▬ DISP] while in recording standby mode or during recording.
The display changes each time this is done to show elapsed recording time and the remaining recording time.

Note
The available time for recording corresponds to the currently selected recording mode; LP2 or LP4.

Adjusting recording sensitivity
Press [EQ/REC SENS] while in recording standby mode.
The mode changes each time the button is pressed.

REC SENS H
↓
REC SENS L
↓
Manual setting

REC SENS H is recommended when:
- Analogue recording from portable equipment
- Digital recording from satellite tuners etc.
- Microphone recording of meetings.

REC SENS L is recommended when:
- Analogue recording from stereo systems
- Normal digital recording.
- Microphone recording of loud live performances etc.

To adjust manually
1 Put the unit in recording standby mode.
2 Begin playback of the source.
3 Press [|◀◀] or [▶▶|].
Adjust so the meter reaches to between –12dB and –4dB.
▶▶|: Recording sensitivity increases. (The level meter also increases in length.)
|◀◀: Recording sensitivity decreases. (The level meter also decreases in length.)

Note
- You cannot change the settings during recording.
- The setting is cleared when you finish recording. Adjust again if necessary before starting the next recording.

Playback (Basic play)

Refer to the illustrations on pages 28 to 29 of the Japanese text.

Preparation

- Release HOLD.
- Insert a MD.

1 Connect the remote control and earphones, then insert the remote control's plug into the headphone jack [🎧] on the unit.

2 Main unit

Press [▶/II] to start play.

Remote control

Press [▶/■] to start play.

The unit stops automatically when all the tracks on the disc have been played.

3 Adjust the volume.

+: To increase the volume level

−: To decrease the volume level

Volume level is 0–25.

■To pause play

Main unit

Press [▶/II] during play.

Playback starts when pressed again.

■To stop the disc

Main unit

Press [■/OPR OFF].

Remote control

Press [▶/■].

- The unit powers itself off automatically in about a minute.
- You can turn off the unit by pressing again [■/OPR OFF] on the main unit while stopped.

■Playback for long times

- **MDLP**
  You can play tracks recorded with MDLP mode. "LP-2" or "LP-4" is displayed.
- **Monaural playback**
  If a disc was recorded monaurally, the unit automatically switches to monaural playback mode.

The unit selects the play mode according to the recording mode: normal stereo, 2 x play stereo (LP2), or 4 x play stereo (LP4), monaural.

■Resume function

The unit stores the point at which play was stopped and if [▶/II] on the main unit or [▶/■] on the remote control is pressed again, play begins from that point. This does not work if the unit is opened or if the battery is removed. The unit starts play from the first track in these cases.

To listen through the speakers

Refer to the illustration on page 30 of the Japanese text.

1. **Insert a rechargeable battery into the unit.**
2. **Install the unit to the multi cradle.**
3. **Connect the AC adaptor to the multi cradle.**
4. **Connect the speakers to the multi cradle.**

To operate the settings for the speakers use the same process as for stereo earphones.

Adjusting the volume

Can also be performed using the multi cradle [−, +, VOL/CURSOR] buttons.

Note

- Make sure you connect the AC adaptor as sound will not be produced by the speakers if you use only batteries.
- You may listen to the music you are recording via the speakers (excepting when you are recording using a microphone).

Other playback functions

Refer to the illustrations on pages 31 to 36 of the Japanese text.

Skip

This function skips tracks and play begins from the beginning of the selected track.

Main unit Remote control

Press [|◀◀, ▶▶|] during play.

Forward : [▶▶|]   Backward : [|◀◀]

If you keep the button depressed the unit will continue to skip tracks

Search

This function allows you to fast-forward or rewind through tracks.

Main unit Remote control

Press and hold [|◀◀, ▶▶|] during play.

Forward : [▶▶|]   Backward : [|◀◀]

Track select

This function allows you to begin listening from a selected track.

1 Main unit Remote control

Press [|◀◀, ▶▶|] while stopped to select the track you like.

Forward : [▶▶|]   Backward : [|◀◀]

If you keep the button depressed the unit will continue to skip tracks

2 Main unit

Press [▶/II] to start play.

Remote control

Press [▶/■] to start play.

Play starts from the selected track and plays through to the final track.

Intro-scan memory

You can operate this function only using remote control.

Scan the introductions of tracks and program a maximum of 16 tracks in the order you want to hear them.

■Program the tracks

1. While stopped, press [PLAY MODE] until "INTRO" appears.

The unit powers itself off in about 1 minute if you do not perform another operation.

2. Press [▶/■].

- The first 10 seconds of each track are played in order (intro-scan).
- You can skip tracks during intro-scan.

3. Press [T.MARK/EQ] while the track number is flashing to program the track.

When the introduction of the last track is played, intro-scan starts again from the beginning. Tracks you have programmed are not played again.

4. Repeat step 3 to program all the tracks you want.

5. Press [▶/■] to finish programming.

You can start play of the program by pressing [▶/■].

■If "END" or "FULL" is displayed

You cannot program any more tracks.

END : you have programmed all tracks on the disc.

FULL : you have programmed the maximum of 16 tracks.

Programming ends 2 seconds after either of these is displayed.

■To make a new program

Clear all tracks

While stopped and "MEMO" is on the display, press and hold [T.MARK/EQ] for about 5 seconds.

"CLEAR" is displayed and all tracks are cleared. "INTRO" appears on the display after this. Start from step 2.

■To cancel intro scan

Press [PLAY MODE] while stopped.

("INTRO" disappears, the time information is shown, and normal play is restored.)

Note

It is not possible to use intro-scan playback or memory playback (refer right) in group mode. (See page 88.)

Using the program play

If "MEMO" is on the display, start from step 2.

1. **While stopped, press [PLAY MODE] until "MEMO" appears.**
2. **Press [▶/■].**
   - The tracks are played in the programmed order.
   - During program play, "MEMO" is displayed after the track's title on the remote control's display.

■To stop play

Press [▶/■].

■To cancel program play (The program is stored)

Press [PLAY MODE] while stopped or playing. ("MEMO" disappears, the time information is shown, and normal play is restored.)

■The program is cleared in the following cases

- You **Clear all tracks**
- The battery goes flat
- You open the disc lid
- You open the battery cover
- You activate recording
- You press [EDIT] and editing operations are carried out.
- You activate Net MD.

Sound quality

Main unit

Press [EQ/ REC SENS] when the unit is stopped or playing.

Remote control

Press [T.MARK/EQ] when the unit is stopped or playing.

The mode changes each time the button is pressed.

XBS-1
Increases the power of the bass sounds.
↓
XBS-2
Increases the XBS-1 effect.
↓
TRAIN
Reduces sounds that may annoy others when you are using the unit in a public place.
↓
NORMAL (Cancel) → (returns to XBS-1)

■**When listening through the speakers**

When the AC adaptor is used as the power source it is possible to change settings as follows:

XBS-SP (
Increases the power of the bass sounds.
;
NORMAL (Cancel)

Note

You cannot change sound quality during intro-scan or if "MEMO" is displayed while stopped.

Listening in the group mode

Discs that have been given a group setting (the tracks on the disc have been arranged into a number of groups) allow the listener to select a group and enjoy continuous play of all the songs in that group.

First set the groups. (See page 91.)

Remote control only

1. **Press and hold [PLAY MODE] while stopped to select "GROUP ON" (group mode).**
   ("GRPON" on the remote control's display)
   The group mode and disc mode changes each time the button is pressed.
   GROUP ON ( ) **GROUP OFF (main unit)**
   GRPON ( ) **GRPOFF (remote control)**
2. Main unit / Remote control
   Press and hold [|◀◀, ▶▶|] to select the group you want to listen (group skip).
   If you continue to press the button the group changes successively.
3. Main unit
   Press [▶/❚❚] to start play.
   Remote control
   Press [▶/■] to start play.
   Play will continue to the last song of the selected group and stop.

Note

- The first song of each group will be indicated by the track number "1".
- If "INTRO" or "MEMO" are displayed [refer to intro-scan memory playback (see page 87)] on the remote control while play is stopped, group mode cannot be used.
- For discs not assigned a group setting "NO GROUP" (on the remote control "NO GRP") will be displayed.

■**To skip in the group**

Press [|◀◀, ▶▶|] during play.

■**To search in the group**

Press and hold [|◀◀, ▶▶|] during play.

■**To listen from a selected track in the group**

1 Press [|◀◀, ▶▶|] while stopped.
Forward : [▶▶|] Backward : [|◀◀]

2 Press [▶/❚❚] (main unit) or [▶/■] (remote control) to start the play.

Play starts from the selected track and plays through to the final track in the group.

Repeat and Random play

Main unit

Press [MODE] when the unit is stopped or playing.

Remote control

Press [PLAY MODE] when the unit is stopped or playing.

The mode changes each time the button is pressed.

1 track repeat (1- ⟲) (
One track is played over and over.
;
All track repeat (⟲)
All tracks on the disc (or on the group while the unit is in the group mode) are repeated.
;
Random (RANDOM) (main unit)
(RND) (remote control)
All tracks on the disc (or on the group while the unit is in the group mode) are played randomly once each then the unit stops automatically.
;
Remote control only
Intro-scan memory (INTRO or MEMO)
;
Normal (no indicator is shown)

Note

- "INTRO" and "MEMO" are only displayed while stopped in the disc mode.
- When using all tracks repeat, you may skip, fast forward or rewind from the first song on the disc (or on the group) to the last (and vice versa) even during playback.
- During random play, it is not possible to skip or rewind to a track that has already been played.
- When changing discs or changing group mode (see left), please reset settings.

Other useful functions

Refer to the illustration on pages 37 to 39 of the Japanese text.

■**Adjusting the display's contrast**

When the unit is powered on:

1 Put the main unit in hold (See the illustration on the page 16 of the Japanese text.) .

2 ①Press and hold [▶/❚❚] on the main unit and ...

② Main unit
Press [VOL ,−,+].
Remote control
Press [+, −].
By pressing − or + the contrast will change gradually. Setting can be made in the range as follows.
Main unit: 0 (light) to 29 (dark)
Remote control: 0 (light) to 15 (dark)
+ : darker, − : lighter

■**To light the display of the remote control**

The display lights for about 5 seconds when an operation is done on the remote control. It remains lit for up to 20 seconds while a track or disc title is scrolling on the screen.

■**Checking the display of the remote control**

Press [• LIGHT/ ▬ DISP].

The display lights for 5 seconds.

■**The operation tone of the remote control**

A tone sounds when a button on the remote control is pressed.
The tone can be turned on and off.

When the unit is powered on:

1 Put the main unit in hold (See the illustration on page 16 of the Japanese text.) .

2 ①Press and hold [▶/❚❚] on the main unit and ...

②**To turn on**
Press and hold [▶/■] until "Beep ON" appears.
To turn off
Press and hold [▶/■] until "Beep OFF" appears.

Change the display

Remote control only

Press and hold [• LIGHT/ ▬ DISP] when the unit is stopped or playing.

Note

- "⁎" indicates group names.
- " ▯ "indicates disc names.
- "NO TITLE" (" −♪♪♪− " on the remote control) appears when a track, group, or disc has no title.

Remote control

Disc mode

The display changes each time this is done to show the track title, the disc title, playing time of all tracks, total numbers of tracks, elapsed playing time and the track number.

Group mode

The display changes each time this is done to show the track title, the group title, overall group playing time, overall number of tracks in group, group track number and elapsed playing time.

Main unit

Disc mode

The display changes each time this is done to show the remaining playing time, remaining recording time, the disc title, playing time of all tracks, total numbers of tracks, elapsed playing time, the track number and the track title.

Note

The remaining recording time shown corresponds to the recording mode (normal, LP2, or LP4) currently selected.

Group mode

The display changes each time this is done to show the remaining playing time, the group title, overall group playing time, overall number of tracks in group, group track number , elapsed playing time and the track title.

Operating Instructions

Editing MDs

DIVIDE (Dividing a track into two)

This allows you to add track marks, making it easy to divide a classical piece into its separate movements, for example.

Operation

Refer to the illustration on page 41 of the Japanese text.

1. **Press [EDIT] during play.**
2. **Press [↼ –, + ⇀, VOL/CURSOR] to select "DIVIDE?".**
3. **Press [ENTER, USB ON/OFF] at the point you want to divide the track.**
   A 4 second segment (8 seconds if the track is monaural or recorded with LP2, 16 seconds if the track is recorded with LP4) of the track is played repeatedly, beginning at the point selected.

■To adjust the point

Press**[↼ –, + ⇀, VOL/CURSOR]** to adjust the point.
Adjustments can be made approximately 8 seconds (16 seconds if the track is monaural or recorded with LP2, 32 seconds if the track is recorded with LP4) either side of the original point. (–128 to +127)

4. **Press [ENTER, USB ON/OFF].**
   The display asks you to confirm your selection.
5. **Press [ENTER, USB ON/OFF].**
   When "UTOC Writing" goes out editing is complete and the unit stops.

■To stop part way through an editing operation

Press [EDIT] before confirming the operation in step 5.

Note

- If you divide a track with a title, the latter track becomes untitled.
- DIVIDE cannot be used while the unit is stopped.

MOVE (Moving tracks)

Rearrange the order of the tracks.

Operation

Refer to the illustration on page 42 of the Japanese text.

1. **Press [EDIT] while stopped.**
2. **Press [↼ –, + ⇀, VOL/CURSOR] to select "MOVE?".**
3. **Press [ENTER, USB ON/OFF].**
   Now the display is in the mode to select track to be moved.
4. **Press [↼ –, + ⇀, VOL/CURSOR] to select the track to be moved.**
5. **Press [ENTER, USB ON/OFF].**
   Now the display is in the mode to select the new position.
6. **Press [↼ –, + ⇀, VOL/CURSOR] again to select the new position.**
7. **Press [ENTER, USB ON/OFF].**
   The display asks you to confirm your selection.
8. **Press [ENTER, USB ON/OFF].**
   When "UTOC Writing" goes out editing is complete and the unit stops.

■To stop part way through an editing operation

Press [EDIT] before confirming the operation in step 8.

ALL ERASE (Erasing tracks)

Erase all the tracks on the MD.

Operation

Refer to the illustration on page 43 of the Japanese text.

1. **Press [EDIT] while stopped.**
2. **Press [↼ –, + ⇀, VOL/CURSOR] to select "ALL ERASE?".**
3. **Press [ENTER, USB ON/OFF].**
   The display asks you to confirm your selection.
4. **Press [ENTER, USB ON/OFF].**
   When "UTOC Writing" goes out editing is complete and the unit stops.
   ("BLANK DISC" appears on the display.)

■To stop part way through an editing operation

Press [EDIT] before confirming the operation in step 4.

Note

ALL ERASE cannot be used while the disc is playing or paused.

TRACK ERASE

Erase one track at a time.

Operation

Refer to the illustration on page 44 of the Japanese text.

1. **Press [EDIT] while stopped.**
2. **Press [↼ –, + ⇀, VOL/CURSOR] to select "TRACK ERASE?".**
3. **Press [ENTER, USB ON/OFF].**
   Now the display is in the track selection mode.
4. **Press [↼ –, + ⇀, VOL/CURSOR] to select the track to erase.**
5. **Press [ENTER, USB ON/OFF].**
   The display asks you to confirm your selection.
6. **Press [ENTER, USB ON/OFF].**
   When "UTOC Writing" goes out editing is complete and the unit stops.

■To stop part way through an editing operation

Press [EDIT] before confirming the operation in step 6.

COMBINE (Combining 2 tracks)

Remove a track mark from between two tracks, effectively making them one track.

Operation

Refer to the illustration on page 45 of the Japanese text.

1. **Press [EDIT] while playing the latter of the two tracks you want to combine (or while paused).**
2. **Press [↼ –, + ⇀, VOL/CURSOR] to select "COMBINE?".**
3. **Press [ENTER, USB ON/OFF].**
   The display asks you to confirm your selection. In the example, the last eight seconds of track 2 and the first eight seconds of track 3 play repeatedly. (16 seconds if the track is monaural or recorded with LP2, 32 seconds if the track is recorded with LP4)
4. **Press [ENTER, USB ON/OFF].**
   When "UTOC Writing" goes out editing is complete and the unit stops.

■To stop part way through an editing operation

Press [EDIT] before confirming the operation in step 4.

Note

- The combined track takes the title of the former of the two tracks.
- COMBINE does not work while playing track 1.
- You cannot combine tracks recorded using different modes (monaural, normal stereo, LP2, and LP4).

GROUP (Grouping tracks)

You can do the following

- **Group set**
  Group together successive tracks and give groups titles
- **Group title**
  Change group titles
- **Group release**
  Release tracks from a group

Operation

Refer to the illustration on pages 46 to 49 of the Japanese text.

1. **Press [EDIT] while stopped.**
2. **Press [↼ –, + ⇀, VOL/CURSOR] to select "GROUP?".**
3. **Press [ENTER, USB ON/OFF] .**
   Now the display is in the function selection mode.
4. ①**Press [↼ –, + ⇀, VOL/CURSOR] to select the function.**
   The mode changes each time the button is pressed.

   ②**Press [ENTER, USB ON/OFF] .**
   Refer to operation you selected.

- **GROUP SET**

After step 4 above

The display is ready for you to select the first track in the group.

5. **Press [↼ –, + ⇀, VOL/CURSOR] to select the first track.**
6. **Press [ENTER, USB ON/OFF].**
   The display is ready for you to select the last track in the group.
7. **Press [↼ –, + ⇀, VOL/CURSOR] to select the last track.**
8. **Press [ENTER, USB ON/OFF].**
   The number of the new group is displayed.
   After 2 seconds
   The text editing mode is entered.
9. **Enter the title.** (See pages 92 to 93.)
10. **Press [ENTER, USB ON/OFF].**
    When "UTOC Writing" goes out editing is complete and the unit stops.

■To stop part way through an editing operation

Press [EDIT] before confirming the operation in step 10.

Note

- A group can be made from one track.
- Groups are not operated in the order you create them. They are ordered by track numbers.
- Tracks separated by other tracks cannot be grouped.
- You cannot put the same track into two different groups.

●GROUP TITLE

After step 4 on the preceding page

The display is ready for you to select the group to title.

5 Press [← −, + →, VOL/CURSOR] to select the group you want to title.

6 Press [ENTER, USB ON/OFF].

The text editing mode is entered.

7 Enter the title. (See right.)

8 Press [ENTER, USB ON/OFF].

When **"**UTOC Writing**"** goes out editing is complete and the unit stops.

■To stop part way through an editing operation

Press [EDIT] before confirming the operation in step 8.

●GROUP RELEASE

After step 4 in the page before

The display is ready for you to select the group to release.

5 Press [← −, + →, VOL/CURSOR] to select the group you want to release.

6 Press [ENTER, USB ON/OFF].

The display asks you to confirm your selection.

7 Press [ENTER, USB ON/OFF].

When **"**UTOC Writing**"** goes out editing is complete and the unit stops.

■To stop part way through an editing operation

Press [EDIT] before confirming the operation in step 7.

Note

- After using editing functions (e.g., DIVIDE, MOVE, and COMBINE) on a disc with groups, the unit rewrites UTOC to maintain consistent group information.
- If you create groups with this unit and then perform editing on a unit that is incompatible with group functions, the group information may be rendered unusable.
- Disc titles will not be displayed correctly if you play an MD with groups on it on equipment that is incompatible.

Titling MDs

Titling discs and tracks

Refer to the illustration on pages 50 to 51 of the Japanese text.

- Discs and tracks recorded with standard stereo recording mode can have titles with up to 100 characters. Tracks recorded with LP2 or LP4 can have titles with up to 97 characters.
- One MD can hold a maximum of 1792 characters. The number of characters an MD can hold reduces if you use LP2 or LP4 to record tracks and if you put tracks into groups.

1 Press [EDIT] while stopped.

"TITLE?" appears on the display.

2 Press [ENTER, USB ON/OFF].

"DISC TITLE?" appears on the display.

3 ***When titling a disc***

Press [ENTER, USB ON/OFF] again.

The text editing mode is entered.

When titling a track

①**Press [← −, + →, VOL/CURSOR] to select the track you want to title.**

②**Press [ENTER, USB ON/OFF].**

The text editing mode is entered.

4 Enter the title. (See right.)

5 Press [ENTER, USB ON/OFF].

When "UTOC Writing" goes out editing is complete.

■After titling a disc

The display automatically shows the track titling display. Follow the steps for titling tracks.

■To stop part way through an editing operation

Press [EDIT] before confirming the operation in step 5.

Note

- If you start entering a title while a track is playing, the track repeats until you finish.
- If you begin title editing with a disc that has titles longer than 100 characters, "TITLE OVER" is displayed and then the text-editing mode is entered. The unit erases the extra characters when you complete editing.
- "LP:" are automatically added when you use MD**LP** to extend recording time, so the number of characters you can put in an MD is reduced. When you put tracks into groups, this group information is also recorded and reduces the number of characters an MD can hold.

Entering text

Refer to the illustrations on pages 52 to 53 of the Japanese text.

Preparation: Put the unit in the text editing mode.

1 Press [CHARA] to select the type of characters.

The type changes each time the button is pressed.

ア) A) a) 1
^----------------------}

2 Press the character/numbered buttons to select.

The characters changes each time you press the button.

3 Press [+ → **,VOL/CURSOR**]

The character moves to the title section and the unit is ready to accept the next character.

■To erase a character

1 Press [← −, + →, VOL/CURSOR] to move the cursor over the character you want to erase.

2 Press [DELETE].

The characters after the erased character move back to take its place.

■To insert an extra character or space

1 Press [← −, + →, VOL/CURSOR] to move the cursor to the position you want to insert the character or space.

2 To insert the character

Press character/numbered button.

To insert space

Press [SPACE].

■Correcting titles

1 Delete the character you want to correct.

2 Insert the character.

■Leaving a space during input

Press [+ →, VOL/CURSOR] to move the cursor one space to the right.

■To stop part way through an editing operation

Press [EDIT].
The normal display is restored.

Note

The symbol "/" cannot be inputted twice or more times in succession.

Copying titles from one MD to another (TITLE STATION)

Refer to the illustration on pages 54 of the Japanese text.

The unit temporarily records the titles from an MD so they can then be copied onto another MD.

Before proceeding

- You cannot copy titles from prerecorded MDs or blank MDs.
- You can copy titles only if both MDs have the same number of tracks.
- If the MD you are copying titles to already has titles, they are replaced with the new titles when this procedure is used.
- When you copy the titles recorded with LP2 or LP4 to the tracks recorded with standard stereo mode, these tracks will have "LP:" at the beginning of their title.
- Group information is also copied from the disc being copied.

1 Insert the MD with the titles.

2 Press [EDIT] while stopped.

3 Press [← −, + →, VOL/CURSOR] to select "TITLE COPY?".

4 Press [ENTER, USB ON/OFF].

After "TITLE MEMORY" is displayed "TAKEOUT DISC" is displayed when the unit has recorded the titles.

5 Eject the MD.

"CHANGE DISC" is displayed when the lid is opened.

6 Insert the other MD.

After **"**TOC Reading**"** is displayed, the display asks you to confirm the operation.

7 Press [ENTER, USB ON/OFF].

When "UTOC Writing" goes out editing is complete and the unit stops.

■To stop part way through an editing operation

Press [EDIT] before confirming the operation in step 7.

Using in combination with a computer

Refer to the illustration on pages 55 to 63 the Japanese text.

What is Net MD ?

By connecting the unit to a computer via a USB terminal, it is possible to download music data stored in your computer from CDs and internet music sites to the unit's MD.

■What you can do with Net MD

- You can use BeatJam to convert the music data stored in your computer to OpenMG format, send it to MD player and record it onto MD.
  - You may record in LP2/LP4 mode also. The title of each track will also be recorded.
  - MDs made using Net MD can be listened to just like MDs made from CD using any MD player. It is also possible to record to other MD players using the analog connections.
  - There is a limit to the number of times you may checkout to one piece of music data.
  - If you return the data checked out to the computer (check-in), you may check out for a second time using another media to use it.
- You may operate to unit from a computer to change the order of songs or add track titles.

Note

- BeatJam and Net MD USB drivers can only be installed on computers using a Windows OS. They cannot be installed on a Macintosh computer.
- Net MD will only work properly if the unit is used in combination with a computer with the provided software and drivers installed. We cannot guarantee performance if more than one unit is attached at any one time or if the unit is used combination with other Net MD devices.

Installation

1 Preinstalling BeatJam and Net MD USB drivers

❶Turn on the computer and boot up the OS.

❷Insert the CD-ROM provided into the computer's CD-ROM drive.

The Begin Set Up Screen will be displayed.

❸Click on "Set Up BeatJam" in the Begin Set Up Screen.

Follow the on screen instructions and install. All necessary drivers and applications will be installed.

2 Connection

Use the USB cable (provided) and connect the unit to a computer.

1. **Insert a rechargeable battery into the unit.**
2. **Install the unit to the multi cradle.**
3. **Connect the AC adaptor to the multi cradle.**
4. **Connect the USB cable to the multi cradle and the computer.**

Refer also to the instruction booklet that came with the computer.

Note

Make sure you use the USB cable that came with this unit

3 Double Check

Confirm that BeatJam and Net MD USB drivers have been correctly installed.

- **BeatJam**

  The BeatJam, BeatJam User Registration and BeatStream icons will be displayed on the computer desktop if they have been correctly installed.

- **Net MD USB driver**

  Press [ENTER, USB ON/OFF] on the multi cradle to activate Net MD.

  The items contained in the on screen list may vary according to the computer environment you are using.

  When using Windows 2000 Professional

  (See the illustrations on page 59 of the the Japanese text.)

  When using Windows XP Home Edition/Professional

  (See the illustrations on page 59 of the the Japanese text.)

  When using Windows 98/98 Second Edition or Windows Millennium Edition

  (See the illustrations on page 60 of the the Japanese text.)

Recording onto MD (Checkout)

Refer to the illustration on pages 61 of the Japanese text.

Preparation

①**Turn on the computer and boot up the OS**.

②**Connect the unit to the computer using a USB cable .**

③**Place a MD for recording and a rechargeable battery into the unit and install the unit onto the multi cradle.**

Release the write protection catch on the MD.

1 Press [ENTER, USB ON/OFF] when play is stopped or the power is off.

2 Activate BeatJam on the computer and record (checkout) the songs you want to record to MD.

Checking out is finished when the "UTOC Writing" goes out.

3 Press [ENTER, USB ON/OFF].

Net MD will stand down.

Note

In cases where the track titles were included in the computer data, the titles will also be transferred to the MD.

Returning data to the computer (Checkin)

Refer to the illustration on page 62 of the Japanese text.

Once you have returned a track you checked out to the source computer, you may check it out and use it again on other media.

Preparation

①**Turn on the computer and boot up the OS.**

②**Connect the unit to the computer using a USB cable.**

③**Place a MD containing the checked out tracks and a rechargeable battery in the unit and install on the multi cradle.**

1 Press [ENTER, USB ON/OFF] when play is stopped or the power is off.

2 Activate BeatJam on the computer and return (check-in) the songs.

Checking in is finished when the "UTOC Writing" goes out.

3 Press [ENTER, USB ON/OFF].

Net MD will stand down.

Note

Do not carry out any of the following actions while checking in/out - music data may be lost.

- Press [▲, EJECT] and remove the unit from the multi cradle.
- Disconnect the USB cable.
- Remove the rechargeable battery or disconnect the AC adaptor.

■Operating the unit from a computer

MD play

MD editing

- edit track titles
- rearrange the order of tracks (MOVE)
- remove unwanted tracks (ERASE)

Optional accessories

Refer to the illustration on page 64 of the Japanese text.

■Listening and recording through other equipment

Disconnect the earphones from the remote control and connect the stereo equipment with one of the following line cords.

If the amplifier's connection is ;

a line connection : RP-CAPM3G15

a mini–phone jack : RP-CAM3G15

- Turn off the power to all units before making connections.
- Ensure you connect this unit to the input terminals on your stereo. Connection to the output terminals can damage this unit.
- Set sound quality to NORMAL (canceled). (See page 87.)
- Set the volume on this unit to between 20 and 23.

■Replacement joint phones

RP-HJ337, RP-HJ237

■Stereo microphone

RP-VC200, RP-VC300

■Nickel-metal hydride rechargeable battery

HHF-1PSC/1B, HHF-AZ01S/1B

主な仕様

形　　　式：ミニディスクデジタルオーディオシステム
録 音 方 式：磁界変調オーバーライト方式
読み取り方式：半導体レーザー（λ＝780 nm）による非接触光学式
エラー訂正方式：アドバンスト　クロスインターリーブ　リードソロモンコード（ACIRC）
圧縮/伸長方式：ATRAC/ATRAC3 方式
チャンネル数：2 チャンネル（ステレオ）1 チャンネル（モノラル）（モノラルは再生のみ）
サンプリング周波数：44.1 kHz
サンプリングレートコンバーター　入力：32 kHz/44.1kHz/48 kHz
周 波 数 特 性：20 Hz～20 kHz（＋0 dB ～－8 dB）
ワウ・フラッター：測定限界値以下
入 力 端 子
OPT/LINE IN 端子（[OPT/LINE IN]は兼用ジャック）
入力インピーダンス：22 kΩ
入力レベル：SENS H: 178 mV
SENS L: 500 mV
MIC 端子
入力インピーダンス：600 Ω
入力レベル：SENS H: 0.4 mV
SENS L: 2.5 mV
出 力 端 子
ヘッドホン端子
負荷インピーダンス：22 Ω
出力レベル：3.5 mW＋3.5 mW
スピーカー端子（マルチクレードル）
負荷インピーダンス：8 Ω
出力レベル：0.9 W＋0.9 W

スピーカー（2個）
インピーダンス：8 Ω
電　　　源
本　　体
充電式電池：DC 1.2 V（専用充電式電池）
乾 電 池：DC 1.5 V（単3形アルカリ乾電池×1個）
マルチクレードル
AC アダプター：DC 4.5 V（付属 AC アダプター 100 V AC,50/60 Hz 10 VA 使用時）

電池持続時間（JEITA）
（➡ 右ページ参照）

充 電 時 間
付属 AC アダプター使用：約 3 時間 30 分
寸法(W×H×D)
本 体 寸 法：78.2×71.6×17.9 mm
最大外形寸法：80.4×74.6×20.1 mm（JEITA）
質　　　量：約 124 g（充電式電池含む）
約 97 g（充電式電池含まず）

- 電池持続時間は、水平に置き連続して録音または再生した場合の時間です。使用条件によって短くなる場合があります。
- この仕様は、性能向上のため変更することがあります。

電源「切」時消費電力
… 1.6 W(AC のとき)

電池持続時間（JEITA）

録音

使用電池	ステレオ（通常）	LP2 ステレオ（2 倍長時間）	LP4 ステレオ（4 倍長時間）
充電式電池 1)	約 13 時間	約 17 時間	約 21 時間
乾電池 2)	約 8 時間	約 13 時間	約 16 時間
充電式電池 1)＋乾電池 2)	約 35 時間	約 46 時間	約 56 時間

再生

使用電池	ステレオ（通常）	LP2 ステレオ（2 倍長時間）	LP4 ステレオ（4 倍長時間）
充電式電池 1)	約 25 時間	約 33 時間	約 40 時間
乾電池 2)	約 39 時間	約 50 時間	約 63 時間
充電式電池 1)＋乾電池 2)	約 70 時間	約 90 時間	約 110 時間

1）付属充電式電池フル充電時
2）パナソニックアルカリ乾電池（LR6）使用時

ドルビーラボラトリーズの米国及び外国特許に基づく許諾製品。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

さくいん

＜無料修理規定＞

1．取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。
　（イ）無料修理をご依頼になる場合には、商品に取扱説明書から切り離した本書を添えていただきお買い上げの販売店にお申しつけください。
　（ロ）お買い上げの販売店に無料修理をご依頼にならない場合には、お近くのご相談窓口にご連絡ください。
2．ご転居の場合の修理ご依頼先等は、お買い上げの販売店またはお近くのご相談窓口にご相談ください。
3．ご贈答品等で本保証書に記入の販売店で無料修理をお受けになれない場合には、お近くのご相談窓口へご連絡ください。
4．保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。
　（イ）使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷
　（ロ）お買い上げ後の取付場所の移設、輸送、落下などによる故障及び損傷
　（ハ）火災、地震、水害、落雷、その他天災地変及び公害、塩害、ガス害（硫化ガスなど）、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷
　（ニ）車両、船舶等に搭載された場合に生ずる故障及び損傷（ただし、ポータブルCDプレーヤーなどの車載を目的とした機器を車両に搭載された場合は無料）
　（ホ）一般家庭用以外（例えば業務用など）に使用された場合の故障及び損傷
　（ヘ）本書のご添付がない場合
　（ト）本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
　（チ）持込修理の対象商品を直接修理窓口へ送付した場合の送料等はお客様の負担となります。また、出張修理等を行った場合には、出張料はお客様の負担となります。
5．本書は日本国内においてのみ有効です。
6．本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
7．お近くのご相談窓口は取扱説明書の保証とアフターサービス欄をご参照ください。

修理メモ

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くのご相談窓口にお問い合わせください。
※保証期間経過後の修理や補修用性能部品の保有期間については取扱説明書の「保証とアフターサービス」をご覧ください。
※This warranty is valid only in Japan.